

Continuous Growth with Sustainable Superior Profits

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役
専務執行役員 CFO

2019年5月

Beyond
2020



5G Testing
Anritsu



東証第1部 : 6754
<https://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

I. 中期経営計画 GLP2020 と事業戦略

1. 経営戦略の基本方針
2. 事業概要
3. 中長期の事業戦略の基本方針
4. Byond 2 0 2 0 に向けて始動

II. T&M 事業

1. T&M:利益改善目標
2. T&M:計測市場トレンドと事業機会
3. 産業別テストソリューション
4. Network Reshaping Test Solutions

III. PQA 事業

IV-1. 財務戦略

IV-2. 配当方針

IV-3. 企業理念とサステナビリティ方針

IV-4. コーポレートガバナンス体制

V. MWC 2 0 1 9 Report

VI. 2019年3月期 連結決算概要

I. 中期経営計画 GLP2020と事業戦略

I - 1 . 経営戦略の基本方針

- ✓ 『利益ある持続的成長』路線を徹底する
- ✓ 2020VISION/GLP2020の実現に全力で取り組む

* GLP2020 Plan = FY2018~FY2020



I-2. 事業概要

T&M事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場 : 5 G, LTE
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2019年3月期 実績 (連結) : 997億円

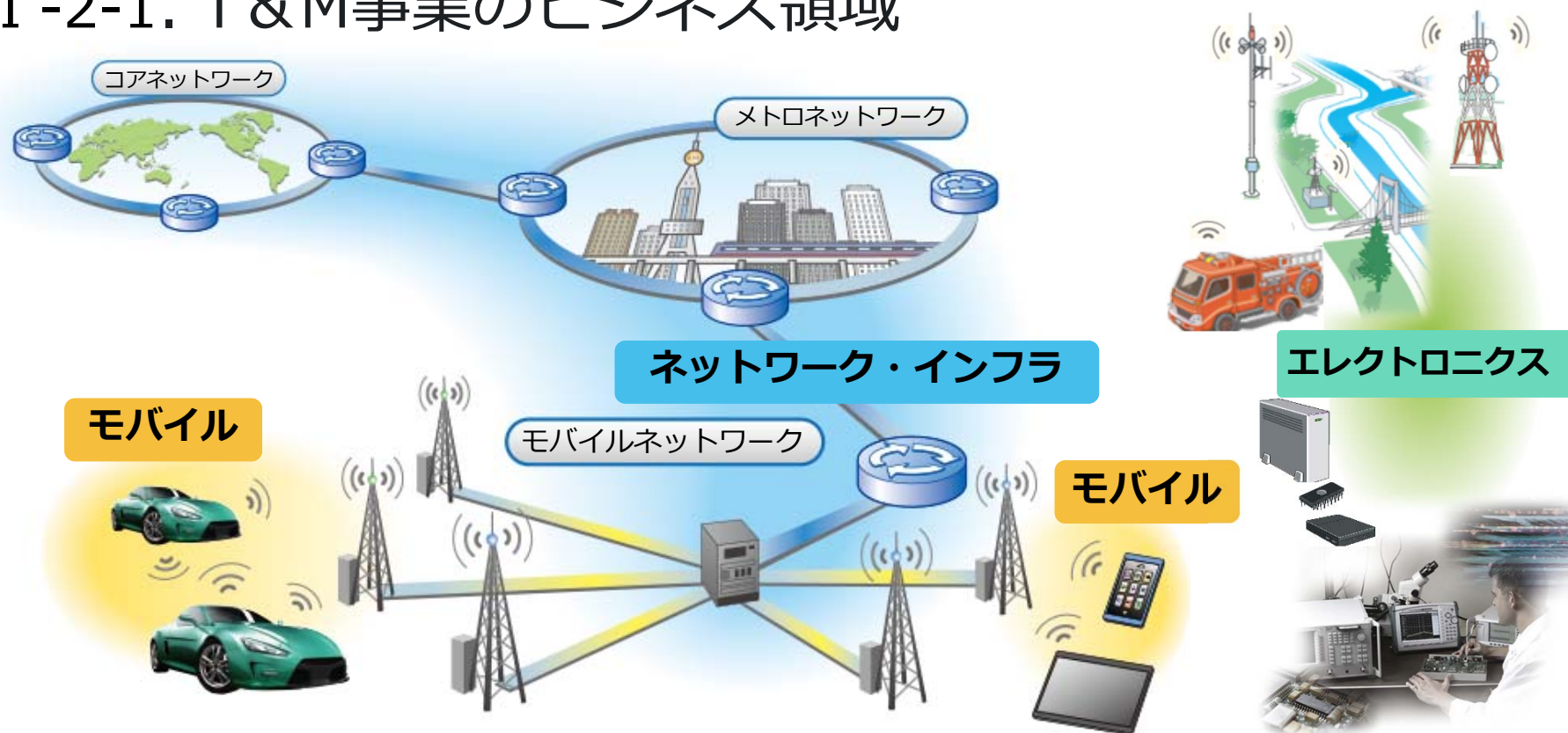
T&M 68%			PQA 23%	その他 9%
モバイル 53%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 21%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 19%	アジア、パシフィック 33%	米州 32%	EMEA 16%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

I -2-1. T&M事業のビジネス領域



	研究開発	製造	建設/保守
有線通信分野	ネットワーク・インフラ(26%)		
無線通信分野	モバイル (53%)		
汎用分野	エレクトロニクス (21%)*		*電子部品等

I -3. 中長期の事業戦略の基本方針

成長ドライバーを確実にキャッチして、
“利益ある持続的成長” を実現する

		市場 年平均 成長率 (当社推定)	ビジョン／成長ドライバー	中長期ガイドライン	
				売上 成長率	営業 利益率
	T&M	3-5%	5G/IoT社会を支えるリーディング カンパニーになる (1) 5G, LTE-Advanced (2) IoT/Automotive, Connectivity (3) IP Data traffic/Cloud Services	≥7%	≥20%
	PQA	3-5%	ワールドクラスの品質保証 ソリューションパートナーになる 異物検出から品質保証市場に拡大	≥7%	≥12%
連結		—	—	—	≥18%
ROE		—	—	≥15%	

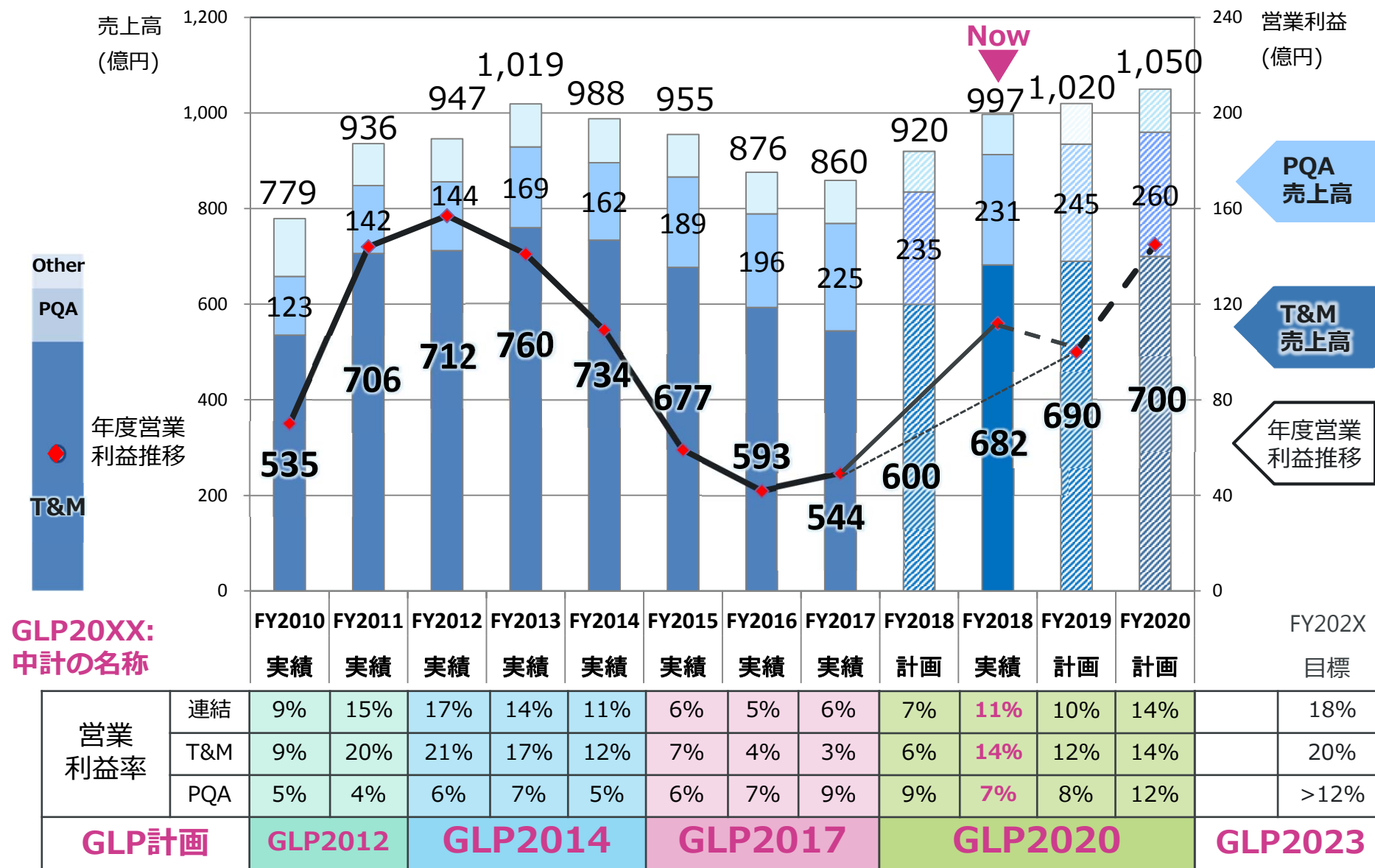
I-3-1. GLP2020 : 売上高・営業利益計画 (1/2)

GLP2020

指標		FY2018(計画)	FY2018 (実績)	FY2019	FY2020
売上高		920 億円	997 億円	1,020 億円	1,050 億円
営業利益		66 億円	112 億円	100 億円	145 億円
営業利益率		7 %	11%	10%	14 %
当期利益		50 億円	90 億円	75 億円	110 億円
ROE		7%	11%	8%	12%
T&M 事業	売上高	600 億円	682億円	690億円	700 億円
	営業利益	35 億円	94億円	80億円	100 億円
	営業利益率	6 %	14 %	12 %	14 %
PQA 事業	売上高	235 億円	231 億円	245 億円	260 億円
	営業利益	20 億円	16 億円	20 億円	30 億円
	営業利益率	9 %	7 %	8 %	12 %

(参考) GLP2020想定為替レート : 1米ドル=105円、1ユーロ=125円

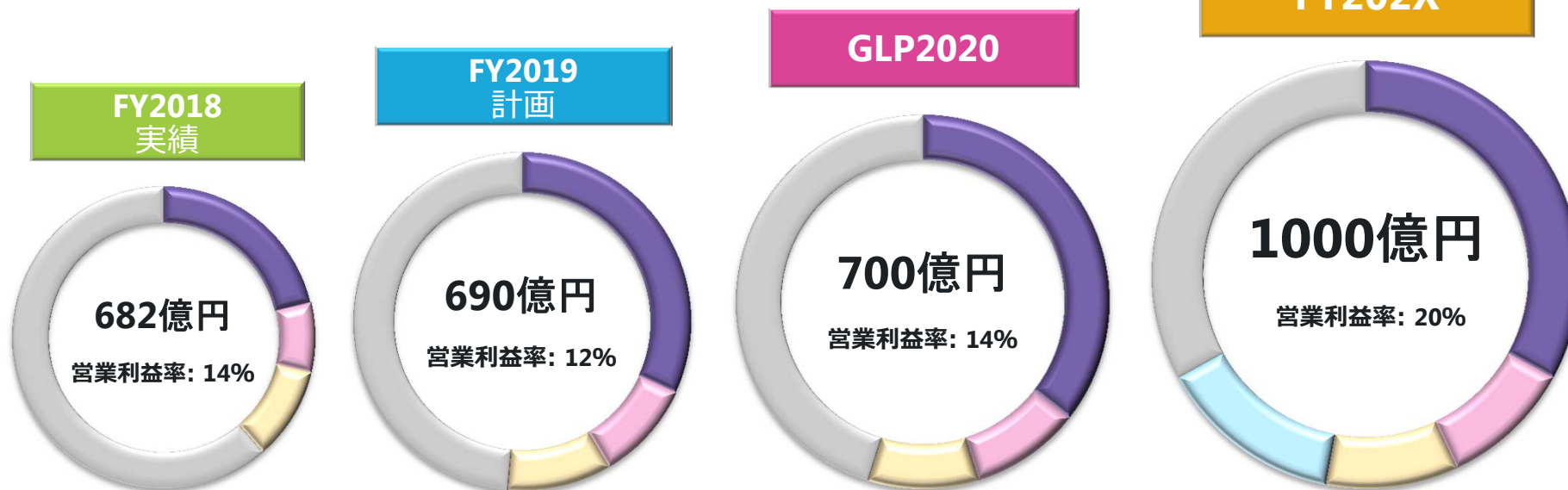
I -3-2. GLP2020：売上高・営業利益計画（2/2）



I - 3 - 3. GLP2020 T&M事業進捗

Beyond
2020

FY202X



2019年度の取組

5Gビジネスの競争力強化に注力して成長機会を獲得

- ・ グローバルな開発体制・顧客サポート体制の充実
- ・ コンフォーマンステストシステム事業の推進



5G



Automotive/IoT



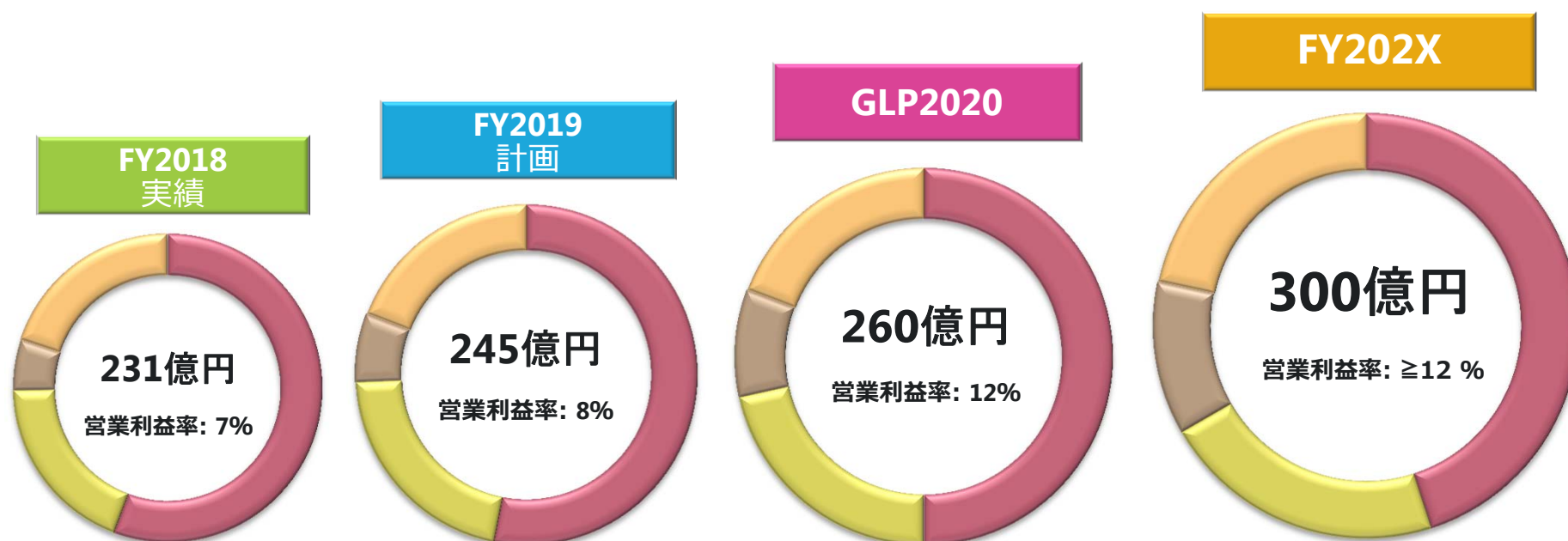
Data Center/Computing



New Business

I - 3 - 4. GLP2020 PQA事業進捗

Beyond
2020



2019年度の取組

- ・ 米州・欧州の販売拠点強化
- ・ ソリューションのプラットフォーム化推進

日本

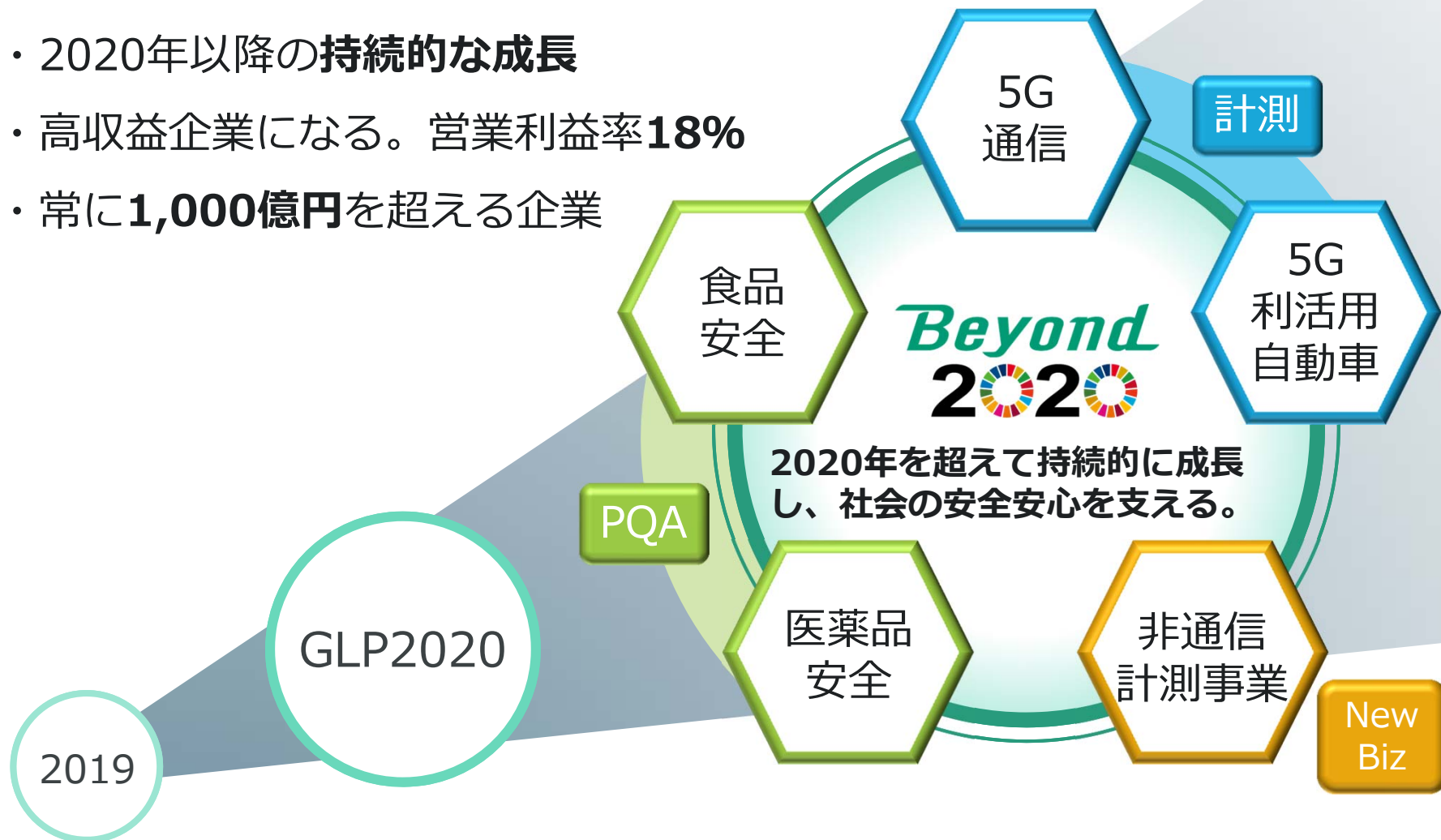
米州

EMEA

アジア

I - 4. Beyond2020に向けて始動

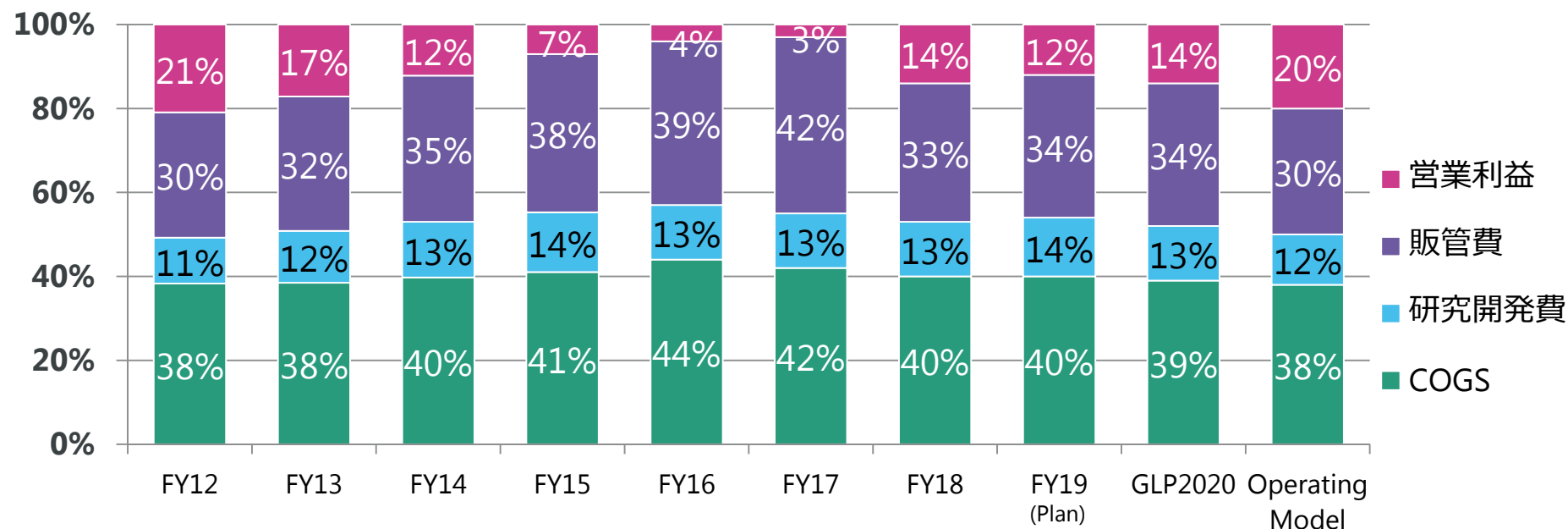
- ・ 2020年以降の**持続的な成長**
- ・ 高収益企業になる。営業利益率**18%**
- ・ 常に**1,000億円**を超える企業



Beyond2020の実現を通じて社会課題を解決する

Ⅱ. T&M事業

Ⅱ-1. T&M：利益体質改善目標

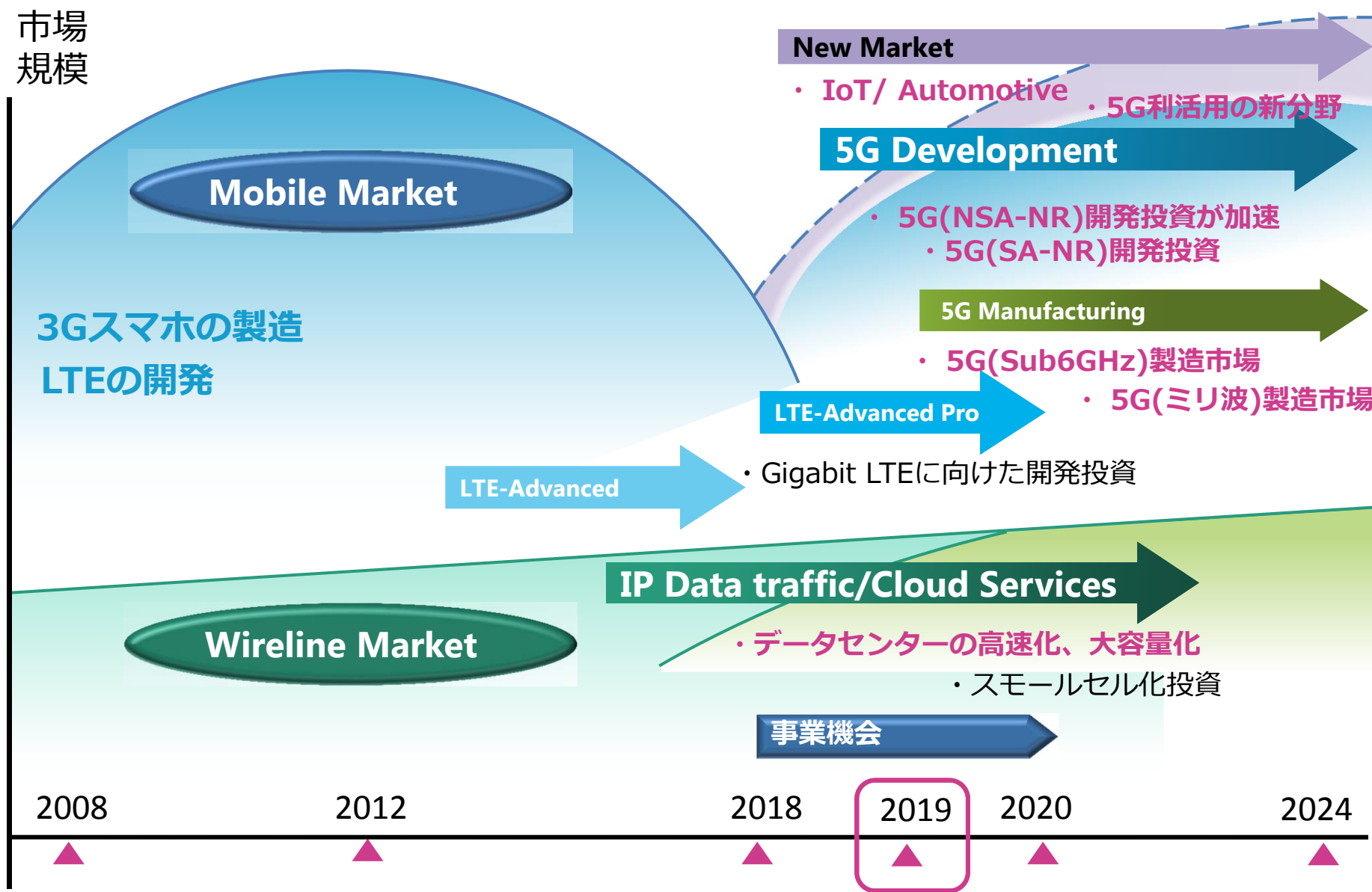


コスト構造の改善施策

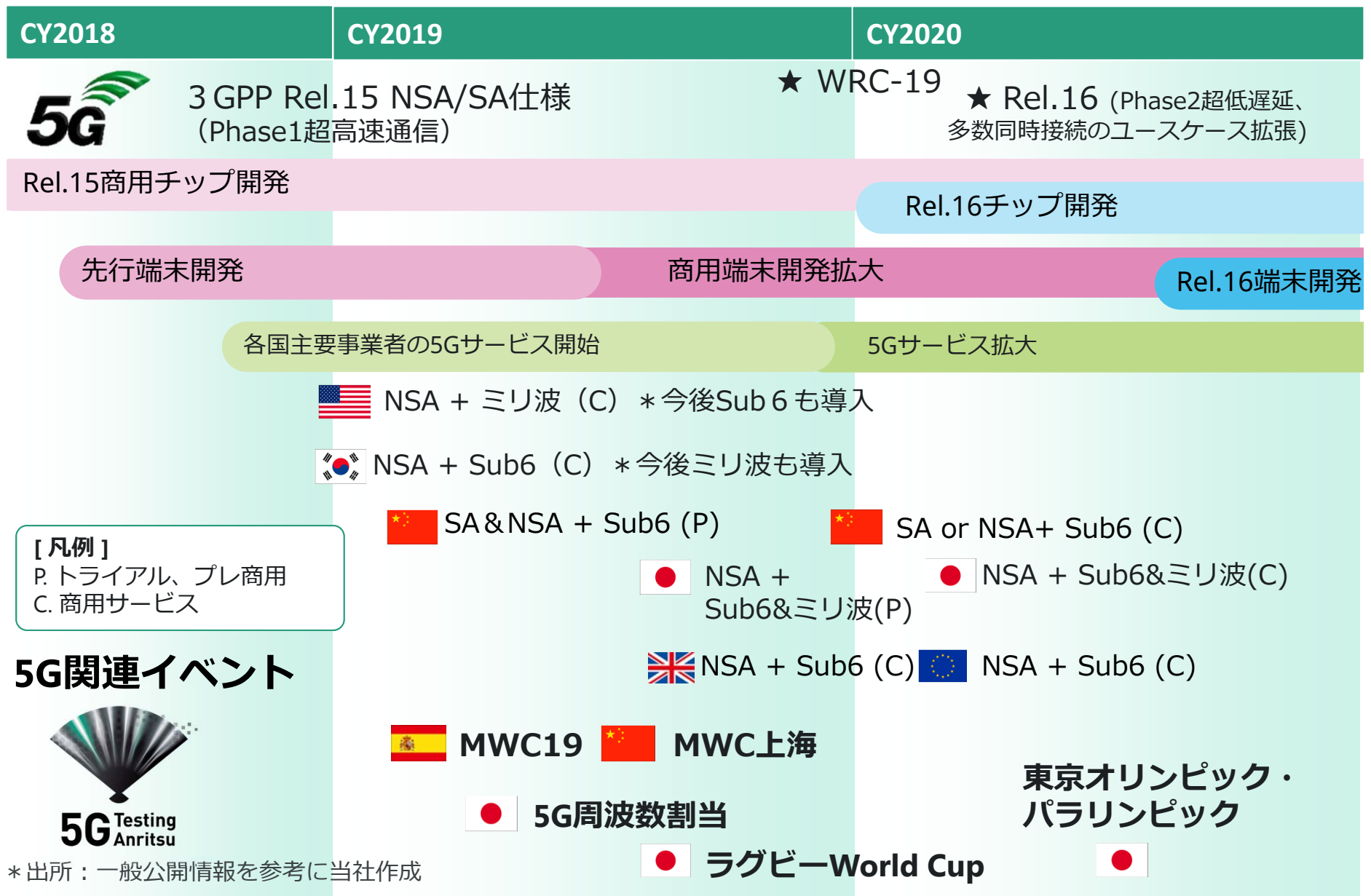
- 高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウェア)
- 開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- 販管費：顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分

*1 KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額） ≥ 4.0

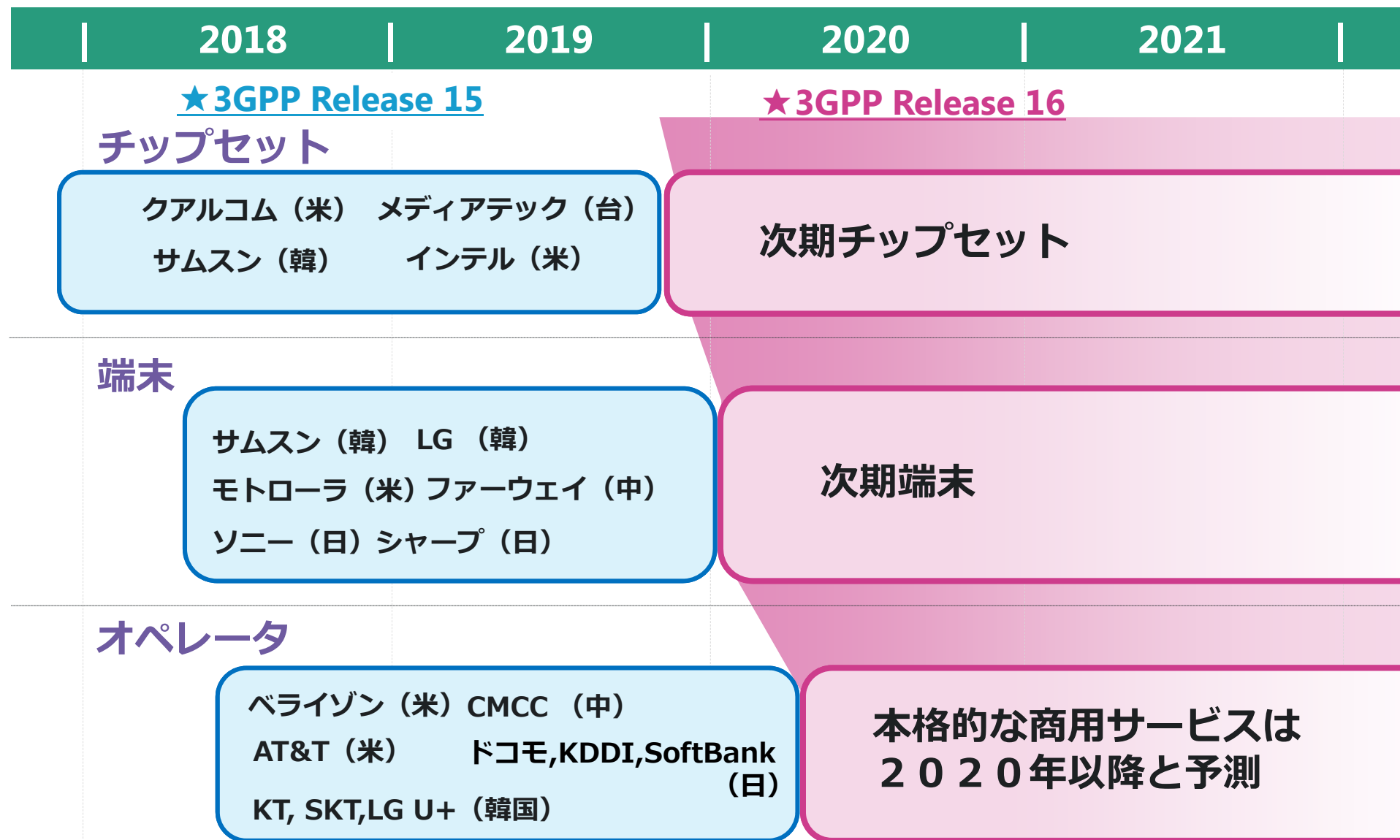
Ⅱ-2. 計測市場トレンドと事業機会



Ⅱ-2-1. 5Gサービスのロードマップ



Ⅱ-2-2. 5G主要ベンダーおよびオペレータの現状と見通し



* 出所：総務省発行「電波政策に関する意見交換会（第58回）資料（2018.9.21）」他
一般公開情報を参考に当社作成

Ⅱ-2-3. 5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション

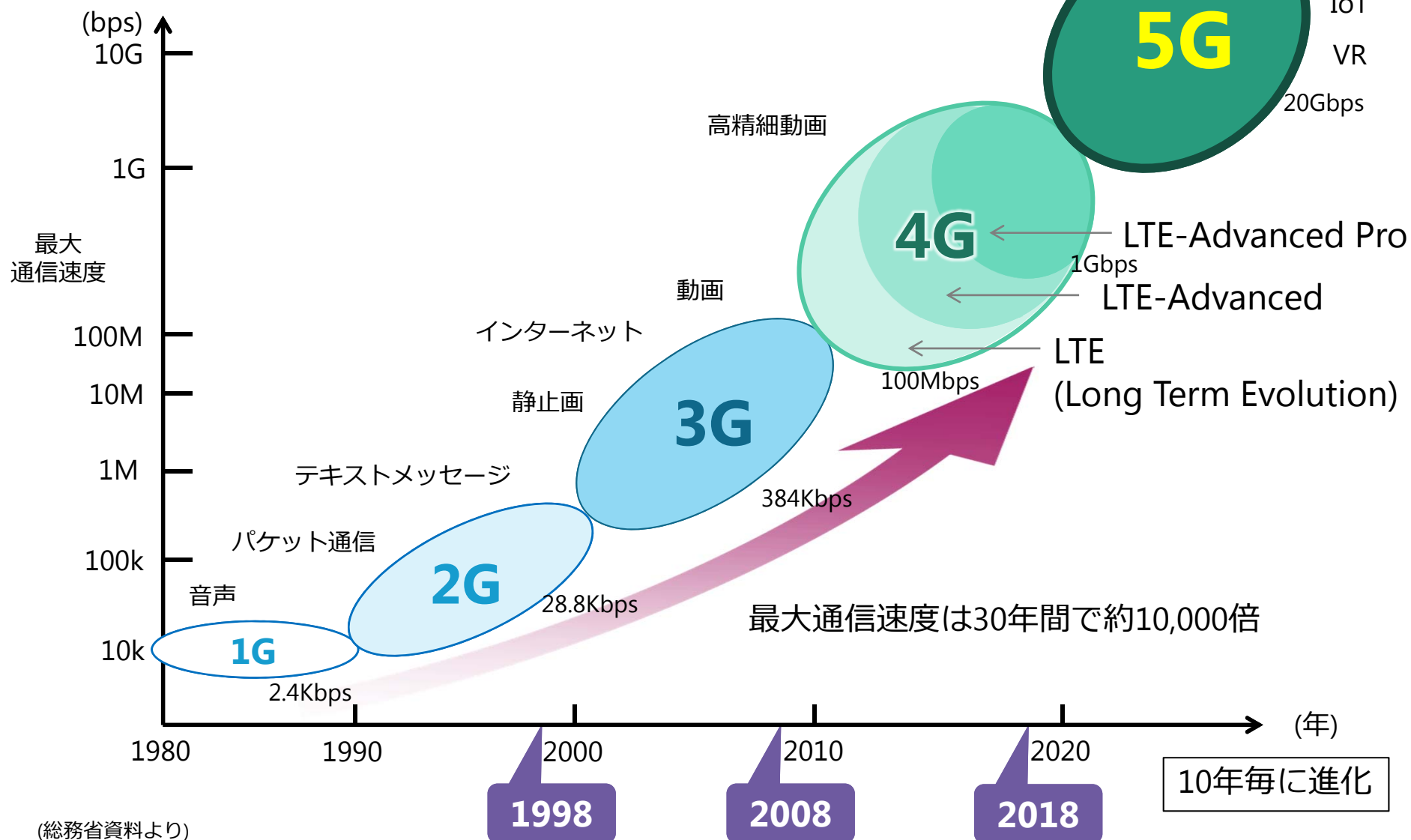


Ⅱ-2-4. モバイルテストソリューションと事業機会 <LTE>

	プラットフォーム (コア) 開発	規格適合試験		オペレータ 受入試験	スマートフォン 商用開発
		RF	プロトコル		
用途	通信規格開発 チップセット開発	規格適合性試験 相互接続試験		通信キャリア認証 試験	アプリ開発 端末動作検証
主な顧客	チップセットベン ダー、端末ベンダー	チップセットベンダー、端末ベン ダー、通信キャリア		通信キャリア、テスト ハウス、端末ベンダー	端末ベンダー アプリ開発事業者
主要テーマ	・FDD / TDD-LTE, LTE-Advanced, LTE-Advanced PRO ・CA (Carrier aggregation), VoLTE (Voice over LTE) ・MIMO (Multi Input Multi Output) ・3G/LTE and SRW (Short Range Wireless)のチップセット一体化				・データスループッ ト向上 ・消費電力 など
テスト ソリュー ション					
競合状況	アンリツ : No.1ポジション R&S ローデ & シュワルツ		R&S ローデ & シュワルツ キーサイト(アナイト) スパイレント		R&S キーサイト

Ⅱ-2-5. モバイル通信の進化

移動通信システムの進化をサポートする



(総務省資料より)

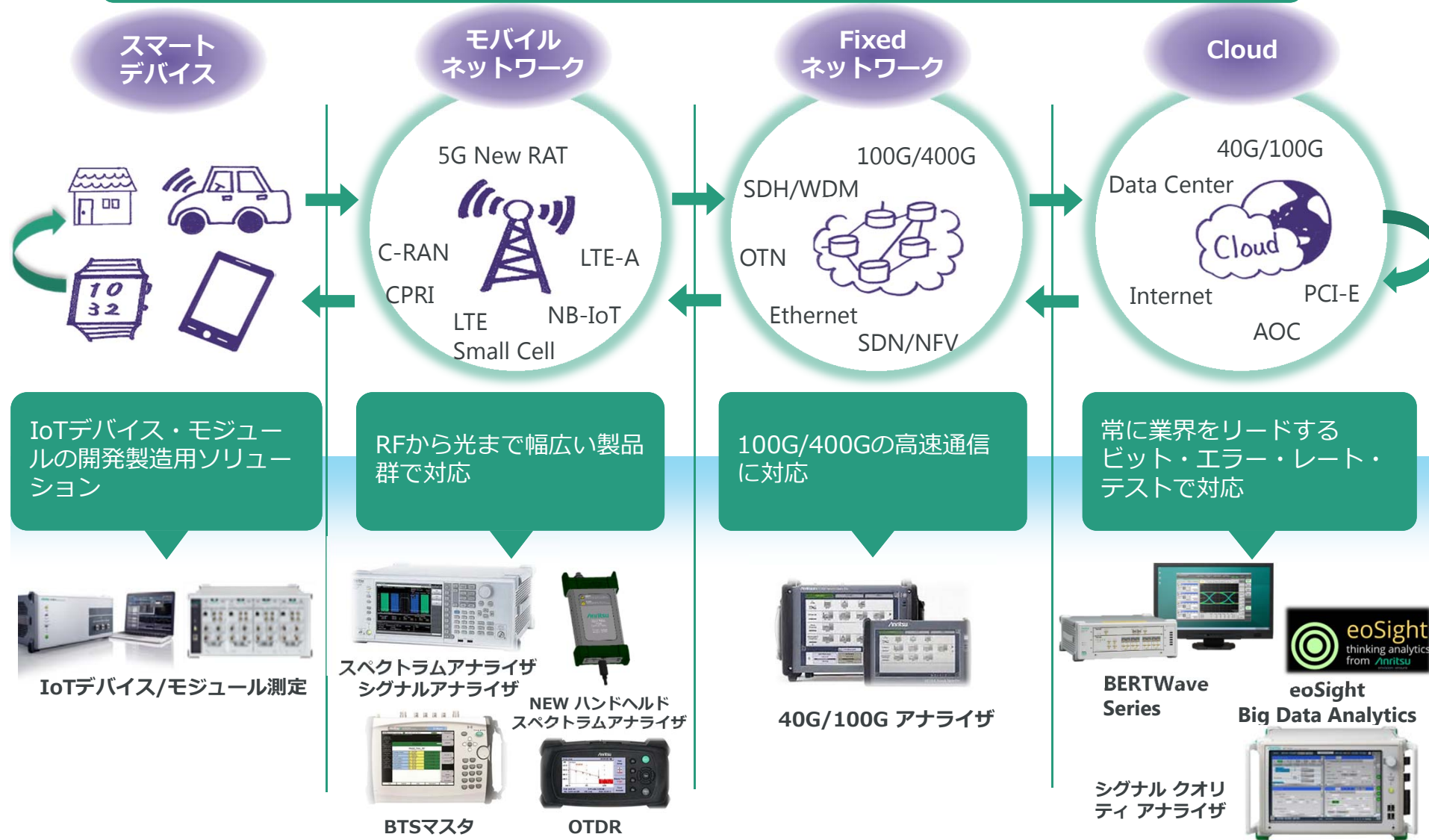
II-2-6. 5Gネットワークを支えるアンリツのソリューション

5Gの特徴 :

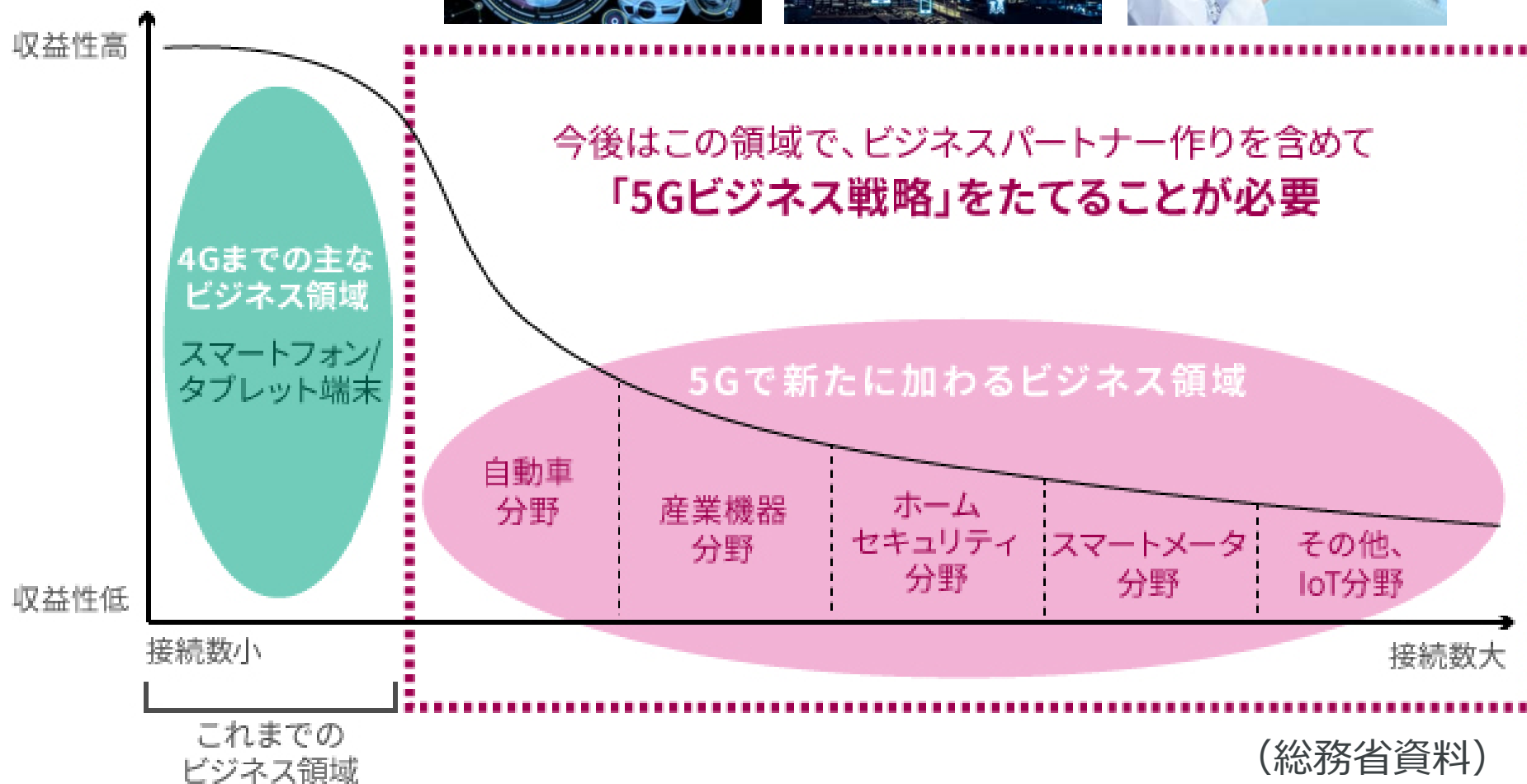
1/10×Latency

100×Peak Data Rate

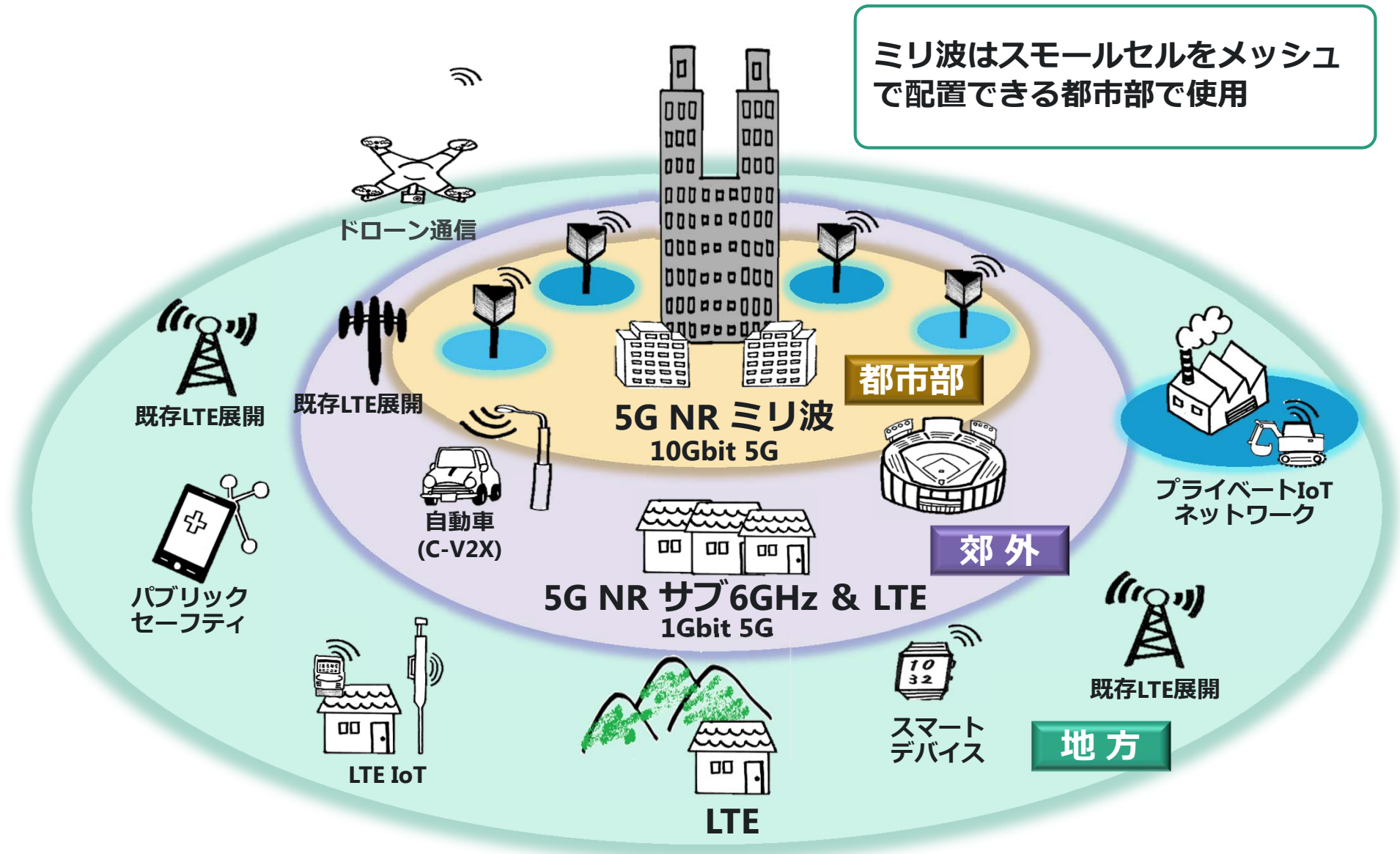
100×Capacity



Ⅱ-2-7. 5Gは社会イノベーションのインフラとなる

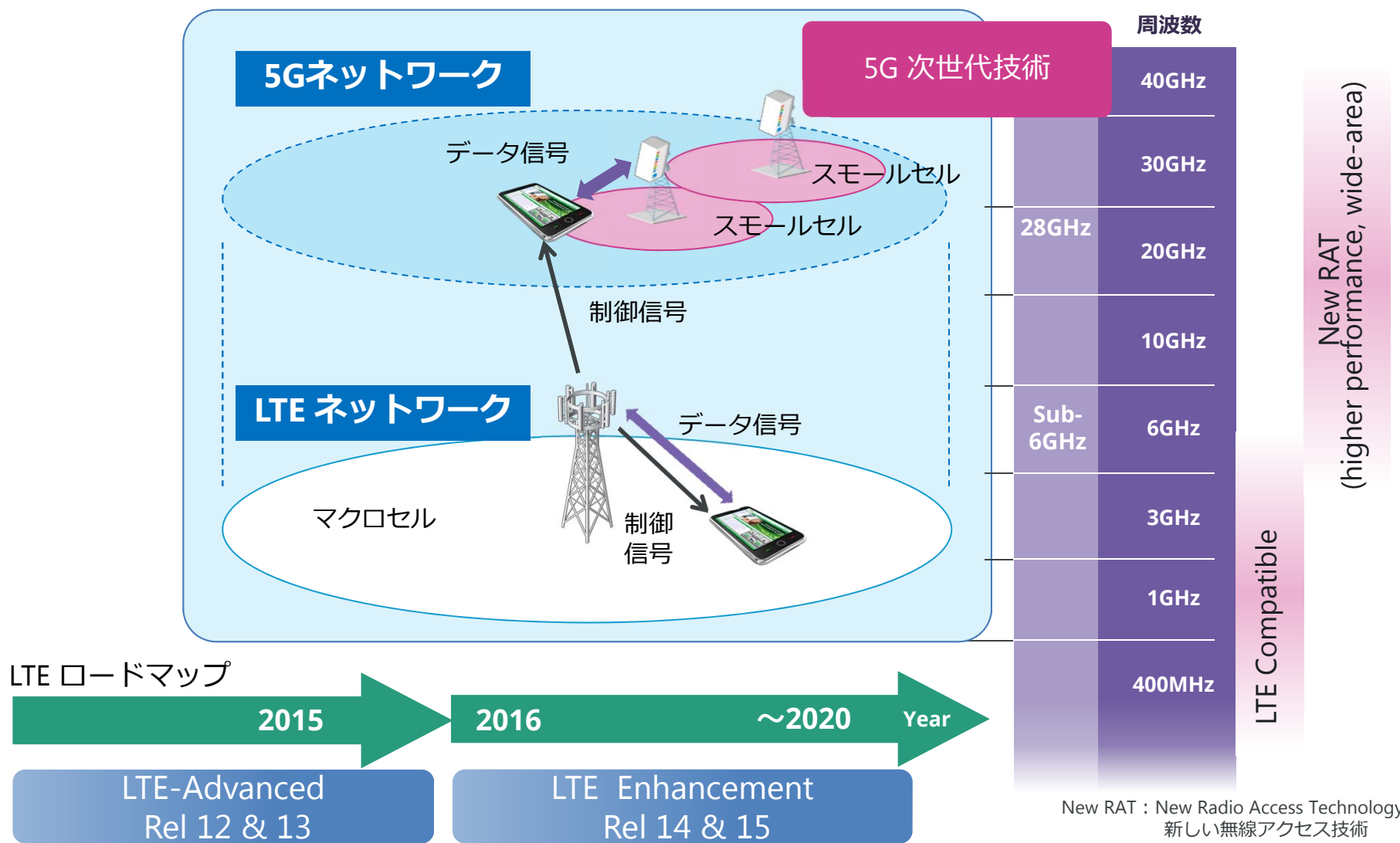


Ⅱ-2-8. 5G サービスの展開予想

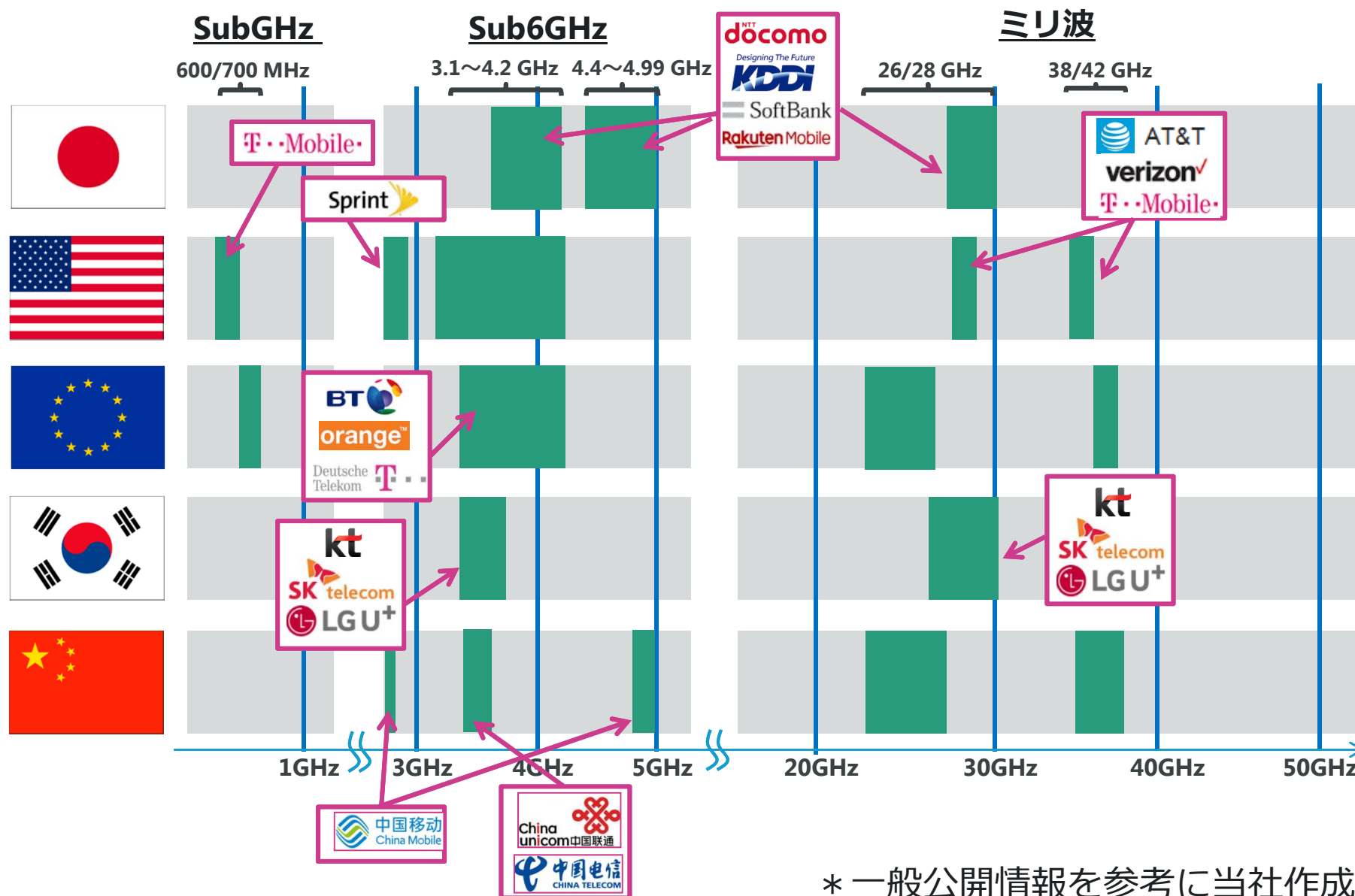


Ⅱ-2-9. 5GとLTEは共存し関係して動作する

5G = LTEの技術進化 + 次世代無線技術



Ⅱ-2-10. 各国の5G向け周波数



* 一般公開情報を参考に当社作成

Ⅱ-2-11. 5Gチップセット・端末開発用ソリューション

5G市場向けチップセットや端末などの開発用テスト ラジオコミュニケーションテストステーション MT8000A

チャンバー（電波暗箱）



MT8000A



Ⅱ-2-12. MT8000Aの役割

実環境



擬似化

試験環境

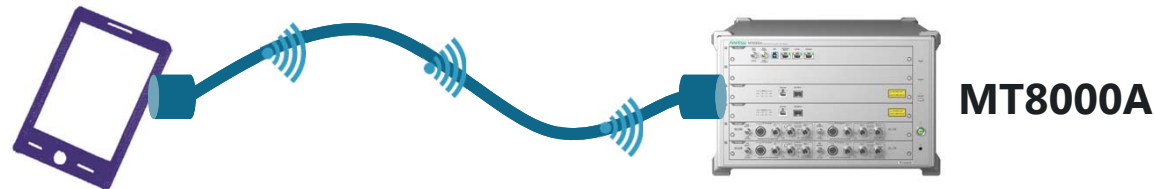


基地局接続では確認できない異常が発生したときや基地局から基地局へハンドオーバーしたときなど様々なシミュレーションが可能

擬似基地局となりスマホと接続して性能試験する

Ⅱ-2-13. 高い周波数（ミリ波）の測定技術

低い周波数の場合



ケーブル接続することによって
正確に測定ができる

高い周波数（ミリ波）の場合

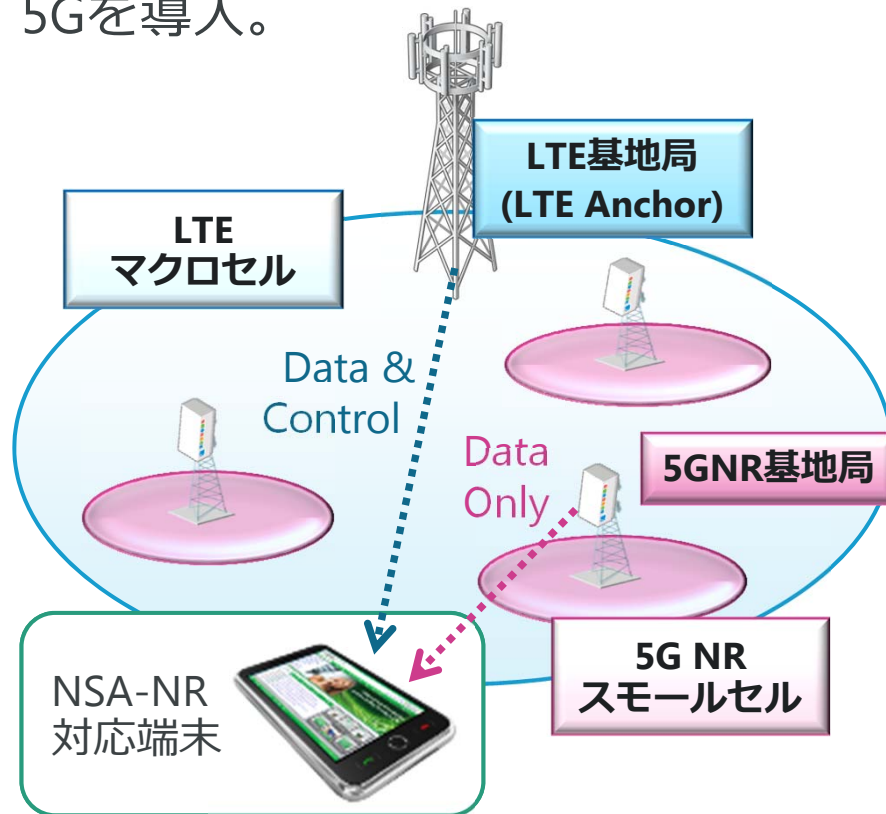
チャンバーを使ったOTA
(Over The Air) 接続で正確に
測定ができる



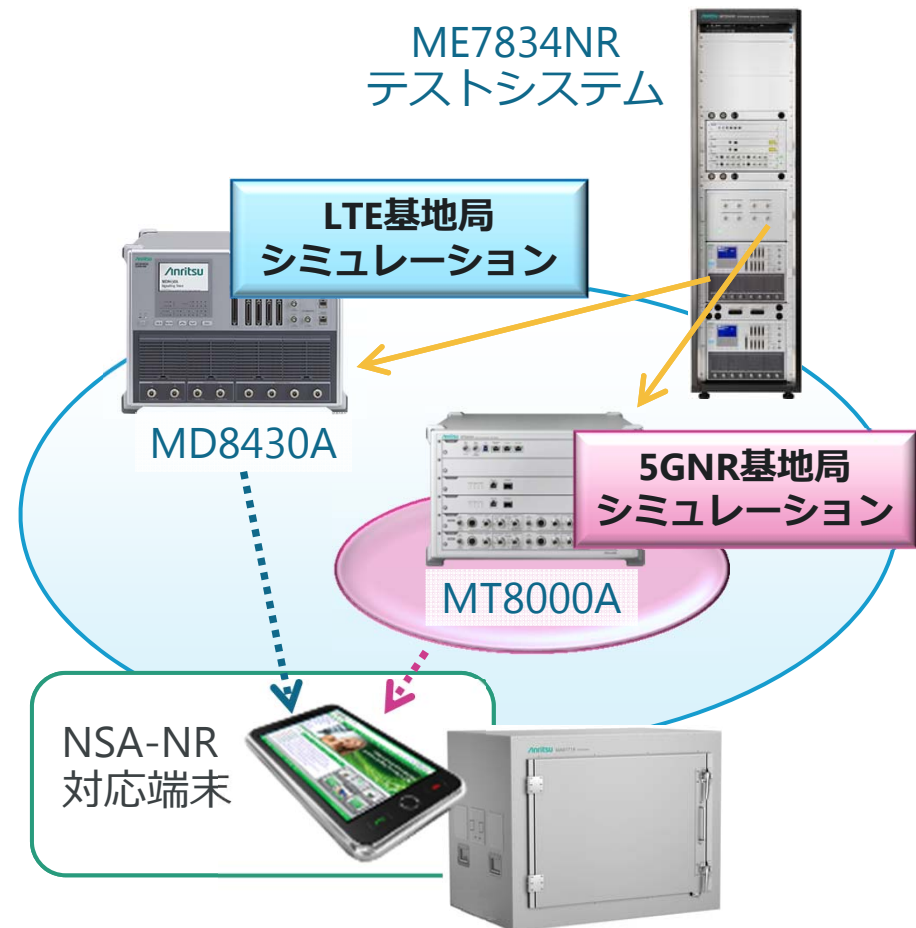
Ⅱ-2-14. 5G NSA-NR端末開発のためのテストソリューション

NSA-NR ネットワーク構成

LTEのコアネットワークを生かして5Gを導入。



NSA-NR テスト環境



Ⅱ-2-15. 5G基地局/端末向けソリューション



MS2850A
シグナルアナライザ

5Gの基地局や端末のR&D、製造に必要な
ミリ波測定ソリューションを今までに無い
低価格で実現したシグナルアナライザ

周波数範囲：9 kHz~32 GHz/44.5 GHz

解析帯域幅：255 MHz (標準)、510 MHz (オプション)、
1GHz (オプション)

今までのLTE用のシグナルアナライザ



- 6GHz以下の周波数が主体
- 解析帯域は20MHzから数百MHz



5G用のシグナルアナライザ



- 44.5GHzまでの周波数をカバー
- 解析帯域は1GHzまで対応
- 商用開発、製造で導入できる低価格

Ⅱ-2-16. アジマスシステム社の買収

- ・会社名： Azimuth Systems, Inc.
- ・本社所在地：米国 ボストン
- ・事業形態：チャネル・エミュレータなどの開発・販売
- ・主な顧客：米州、EMEA、アジアおよび日本のオペレータ、チップセットベンダー、ネットワーク機器ベンダー、UEベンダーなど

Anritsu
envision:ensure

Mobile Devices
Protocol Technology

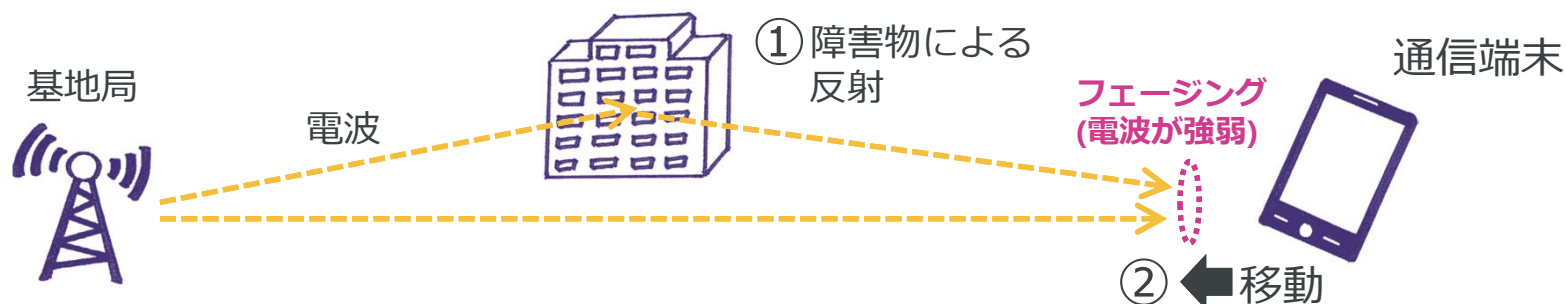


2016年9月

Azimuth

Network Infra.
RF Technology

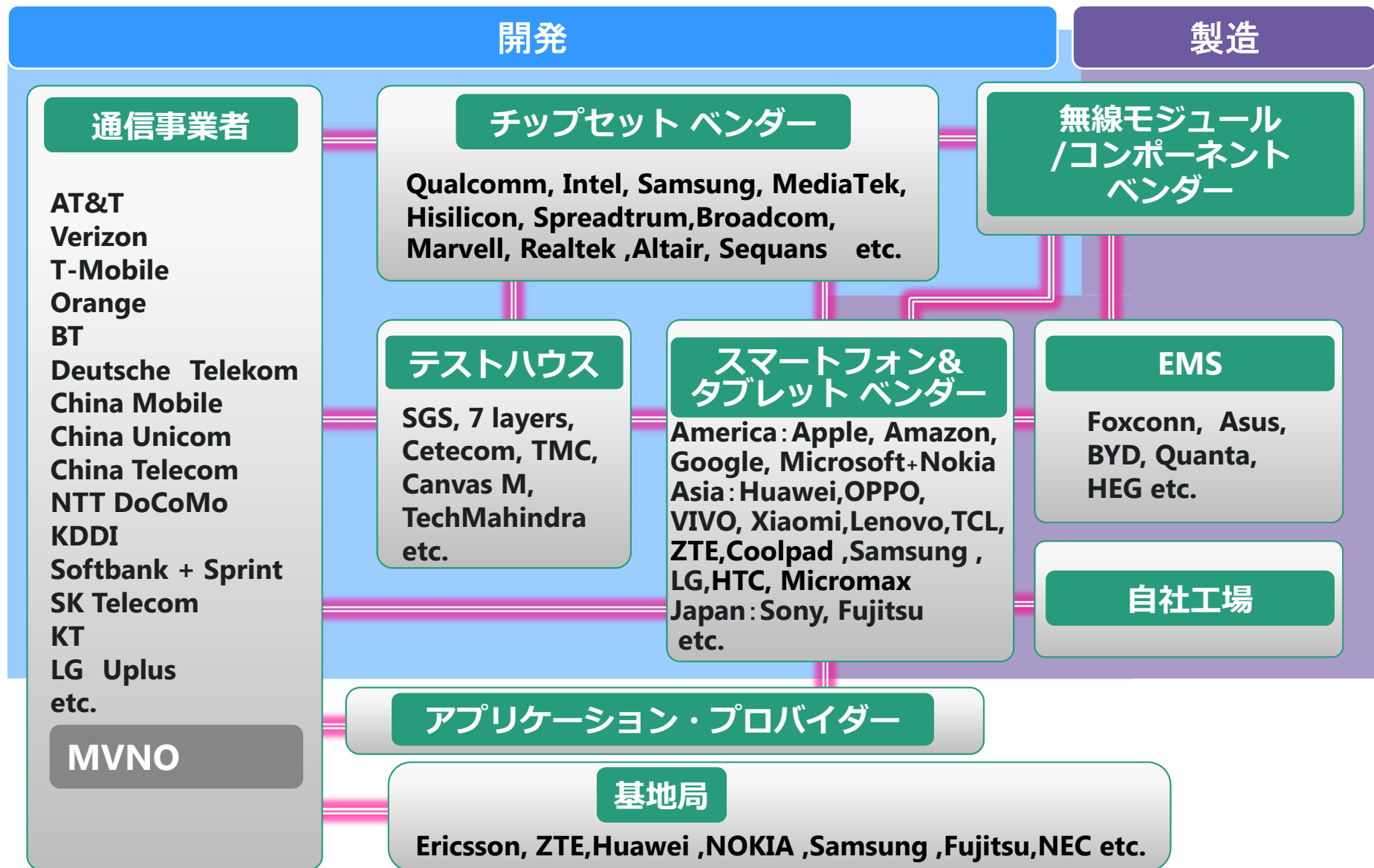
実環境



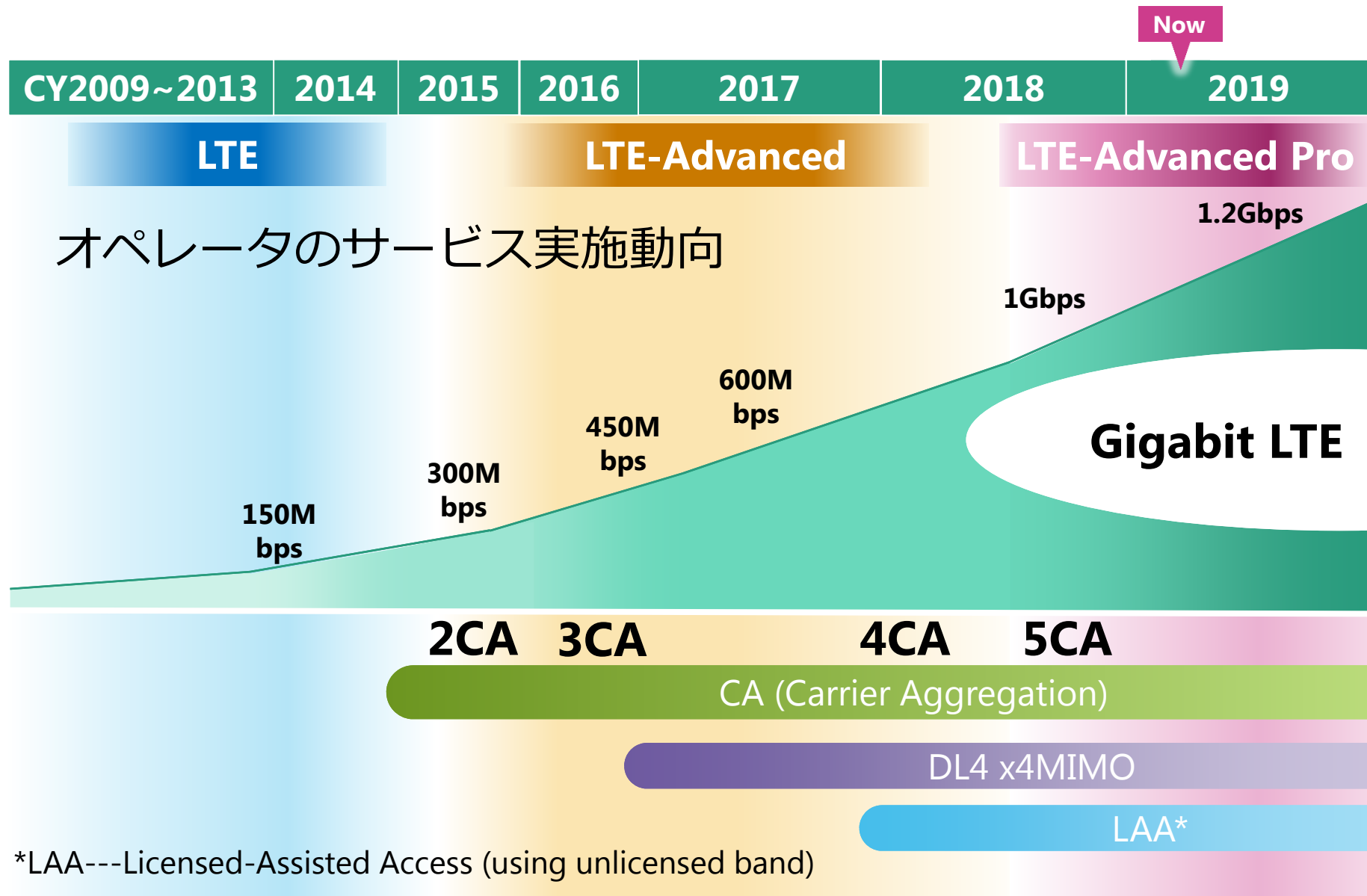
ラボ内 (例: 通信端末試験)



Ⅱ-2-17. モバイル通信市場の業界構造

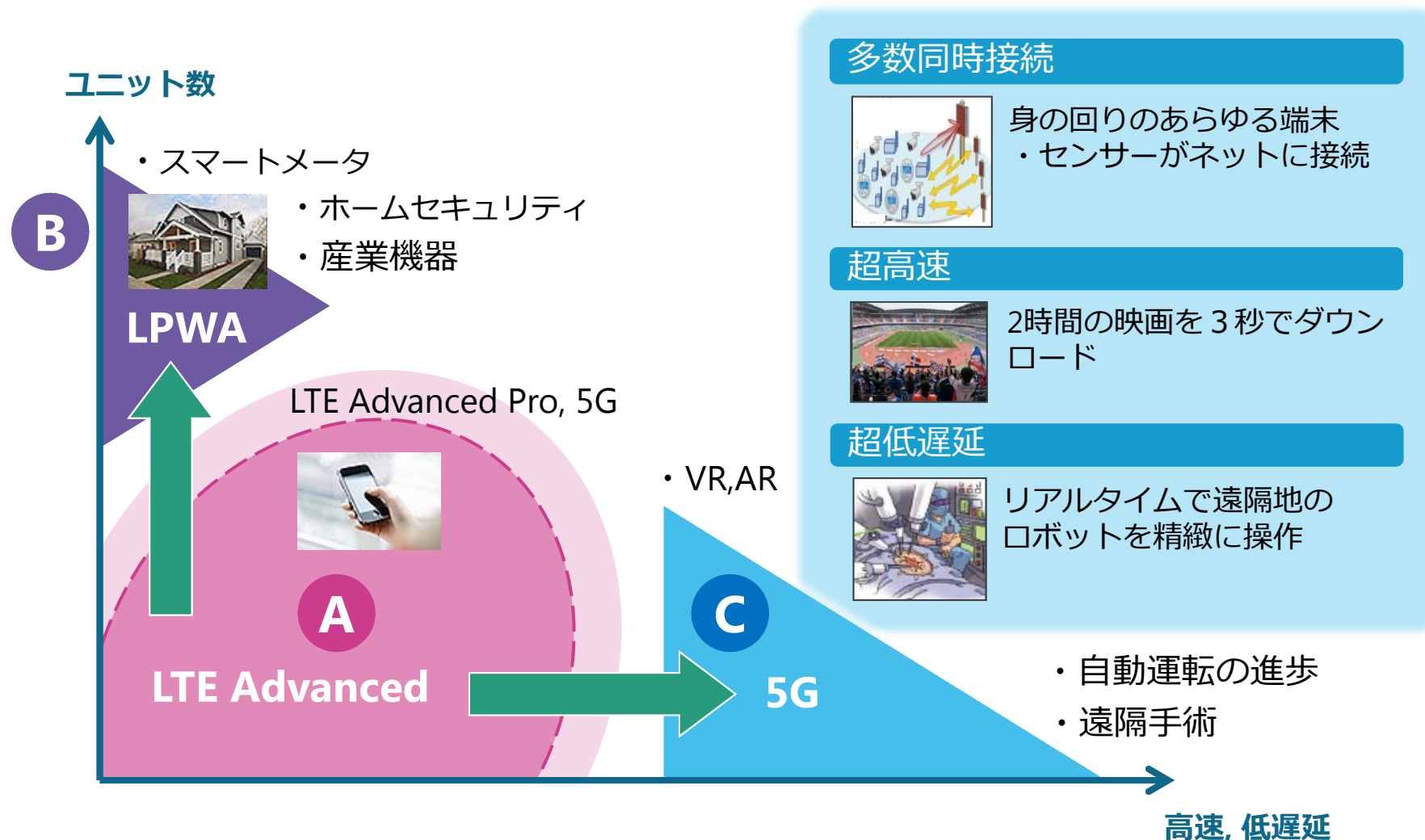


Ⅱ-2-18. LTEサービスのロードマップ



Ⅱ-3. 産業別テストソリューション

5Gの利活用により、多様な産業分野、そして新しい市場の創造をサポートしていくことで、収益機会を拡大。



Ⅱ-3-1. スマートフォンの製造ソリューション

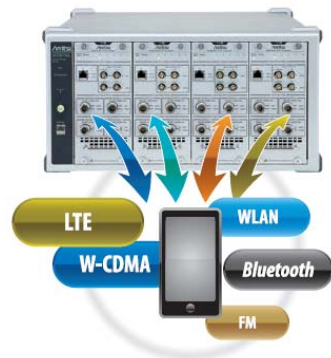
A

最近の動向

1. Huawei, Vivo, Oppo
中国ベンダーの台頭と競争激化 ()
2. インド製造市場の成長

2G / 3G / LTE やコネクティビティ向けソリューション

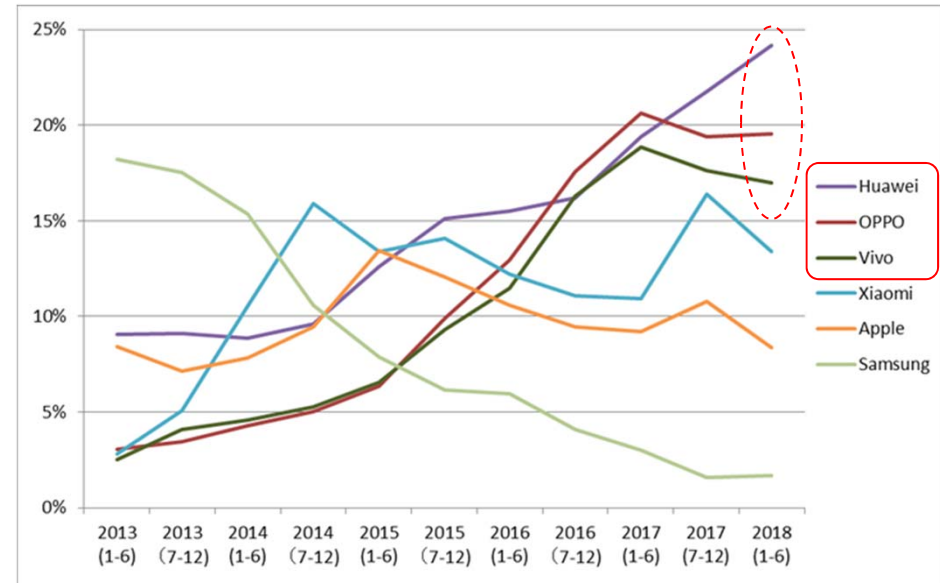
MT8870A
**Universal
Wireless Test Set**



主な競合

ローデ&シュワルツ、キーサイト

中国でのベンダー別スマートフォン出荷シェア *



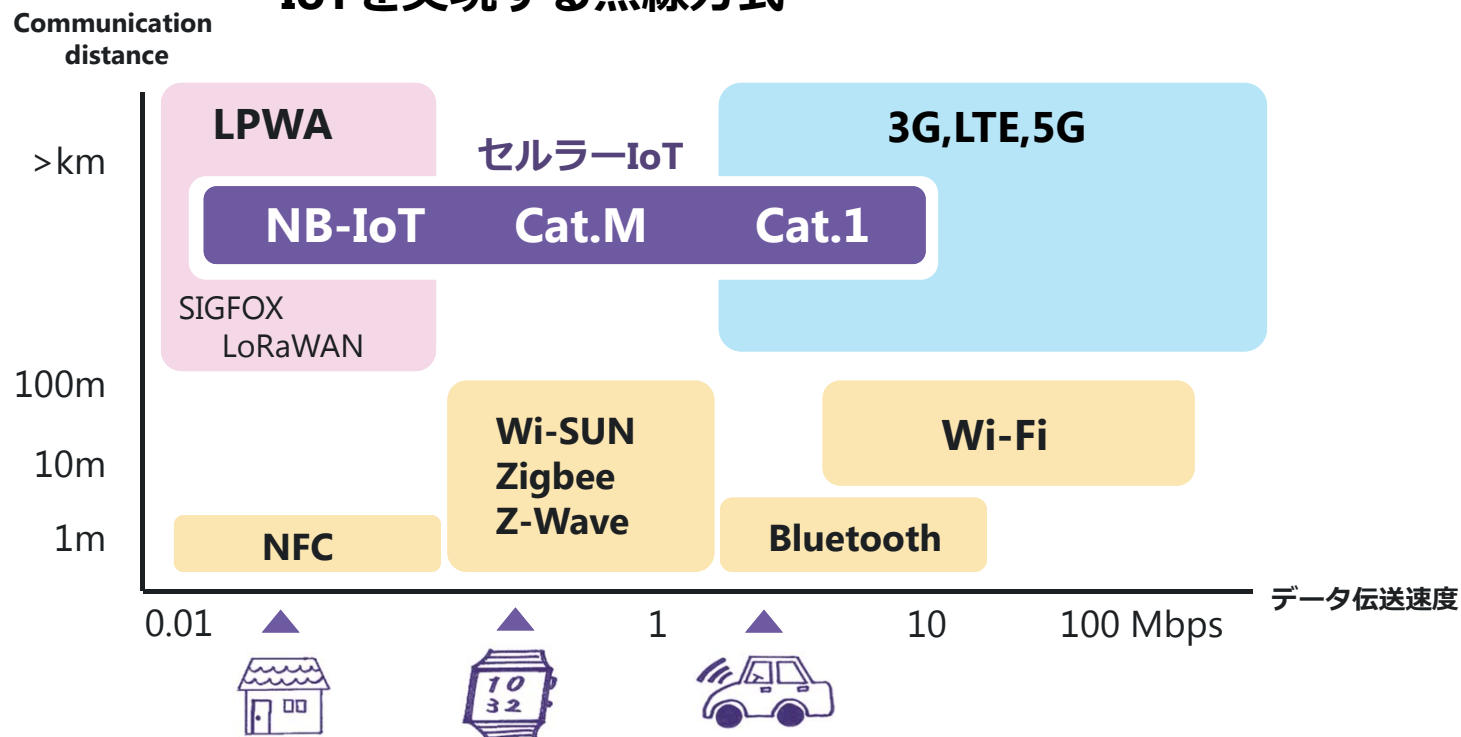
*Source : Gartner "Market Share: PCs, Ultramobiles and Mobile Phones, All Countries, 2Q18 Update" 24 Aug. 2018
Smartphone = Basic Phone, Premium Phone, Utility Phone
OS = Excluding Windows RT and Proprietary
Graph created by Anritsu based on Gartner research

本レポートにおいてガーートナーに帰属するすべての記述は、ガーートナーの顧客向けに発行された配信購読サービスの一部として発行されたデータ、リサーチ・オピニオン、または見解に関する アンリツによる解釈であり、ガーートナーによる 本レポートのレビューは行われておりません。ガーートナーの発行物は、その発行時点における見解であり、本プレゼンテーション発行時点のものではありません。ガーートナーの発行物で述べられた意見は、事実を表現したものではなく、事前の予告なしに変更されることがあります。

Ⅱ-3-2. IoT向けスマートデバイスの研究開発ソリューション

B -1

IoTを実現する無線方式



セルラーIoT向け研究開発用ソリューション

MT8821C
ラジオコミュニケーション
アナライザ



チップセット



SiP
(System in Package)

MD8430A
シグナリングテスト



主な競合

ローデ & シュワルツ
キーサイト

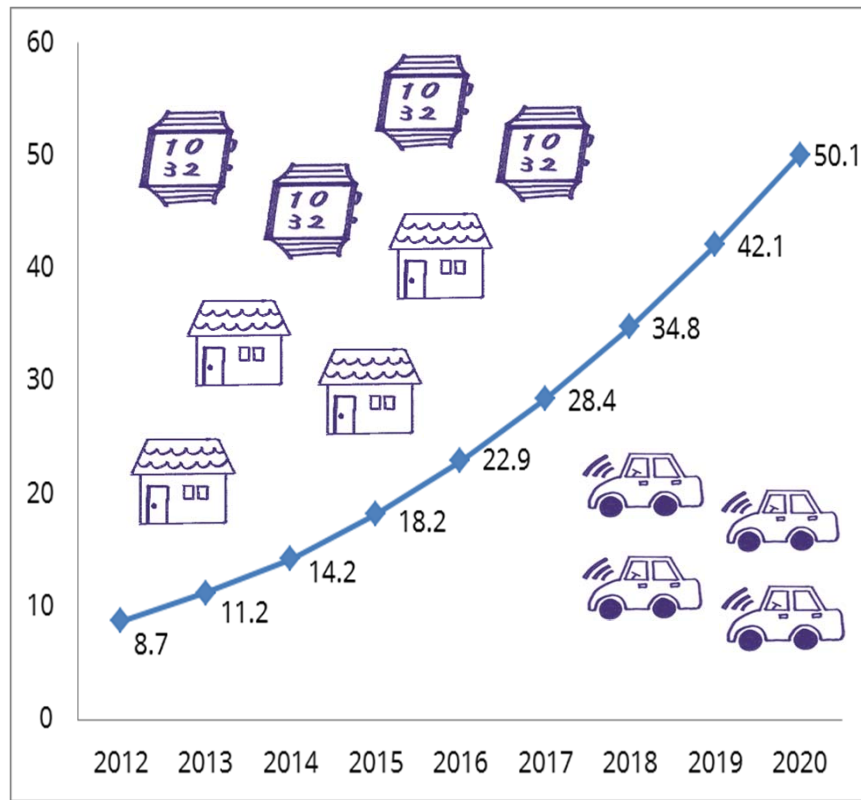
Ⅱ-3-3. IoT向けスマートデバイスの製造ソリューション

B -2

IoT向けコネクティビティ&モジュール市場の成長

[Billions]

The Number of IoT Devices



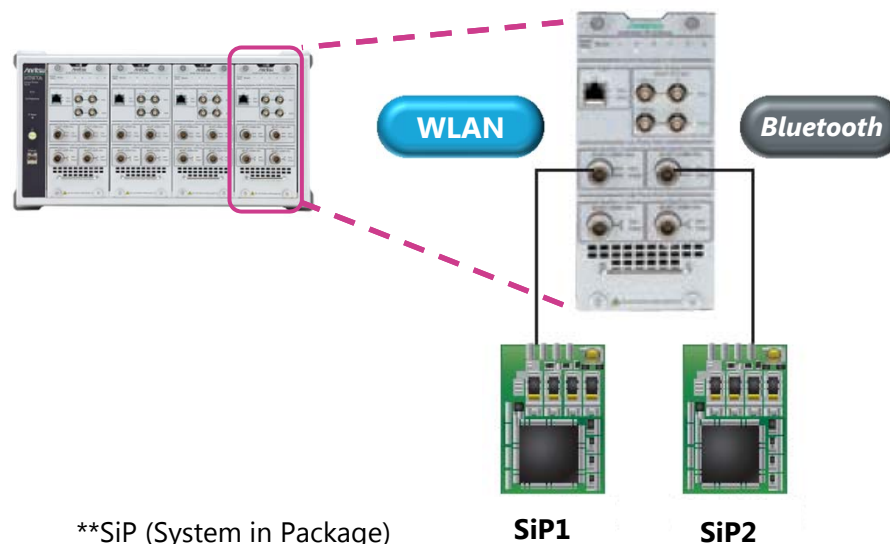
*Source : World Economic Forum

Bluetooth / WLAN向け

MT8862C ワイヤレスコネクティビティテストセット



MT8870A ユニバーサルワイヤレステストセット

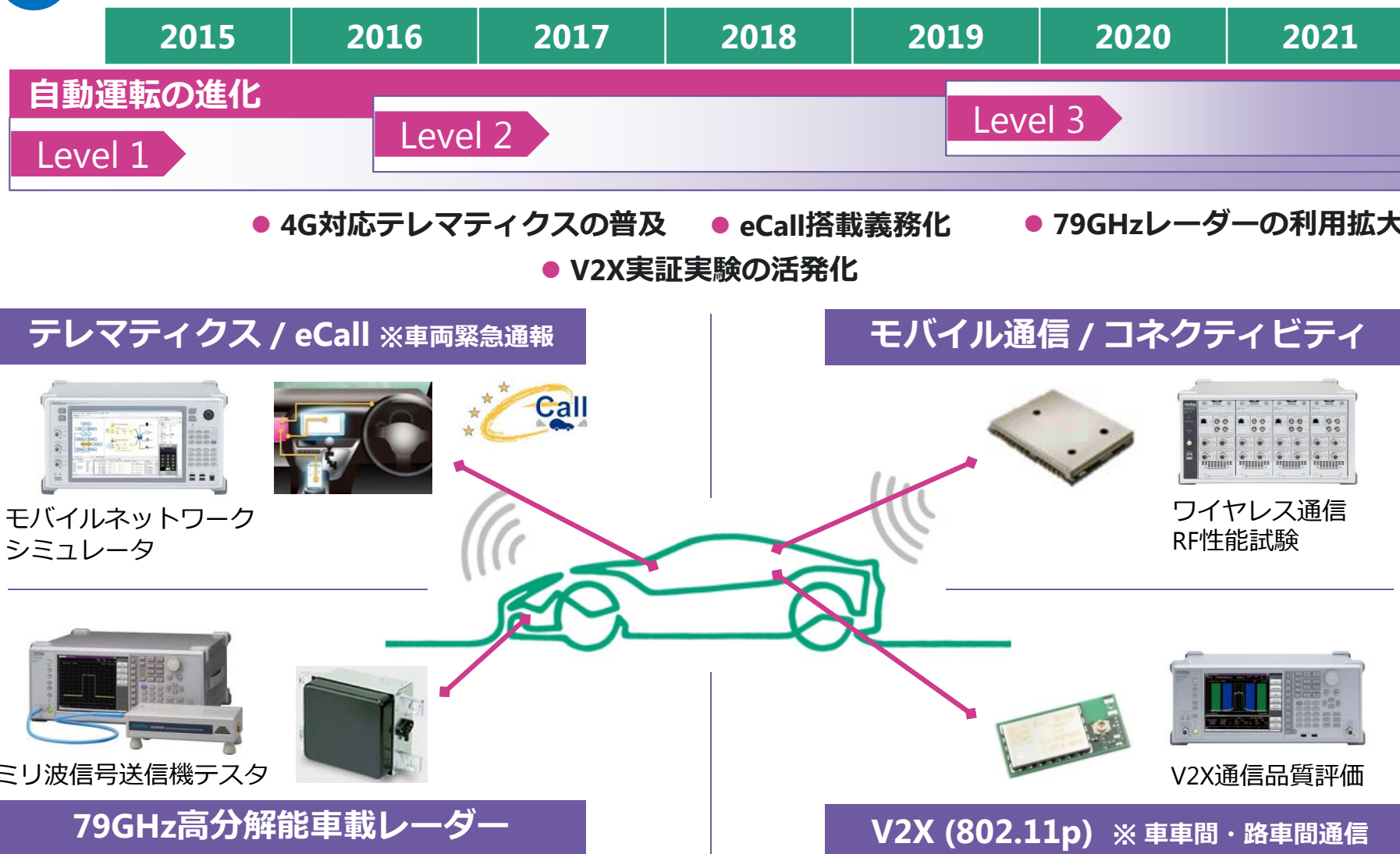


主な競合

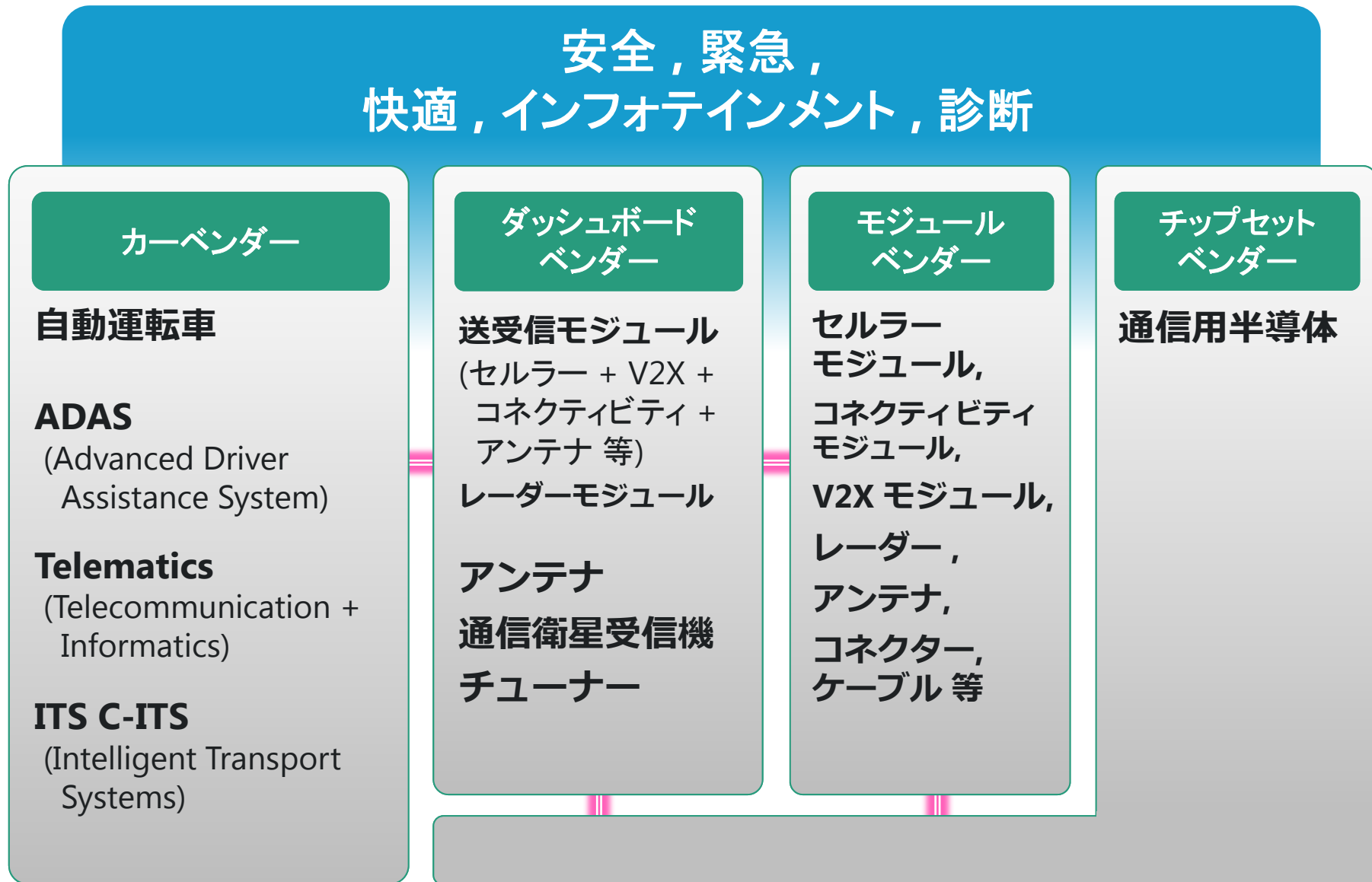
テラデザイン、ナショナル・インスツルメンツ、ローデ&シュワルツ、キーサイト

Ⅱ-3-4. 自動車市場における新技術の導入と アンリツの取り組み

C

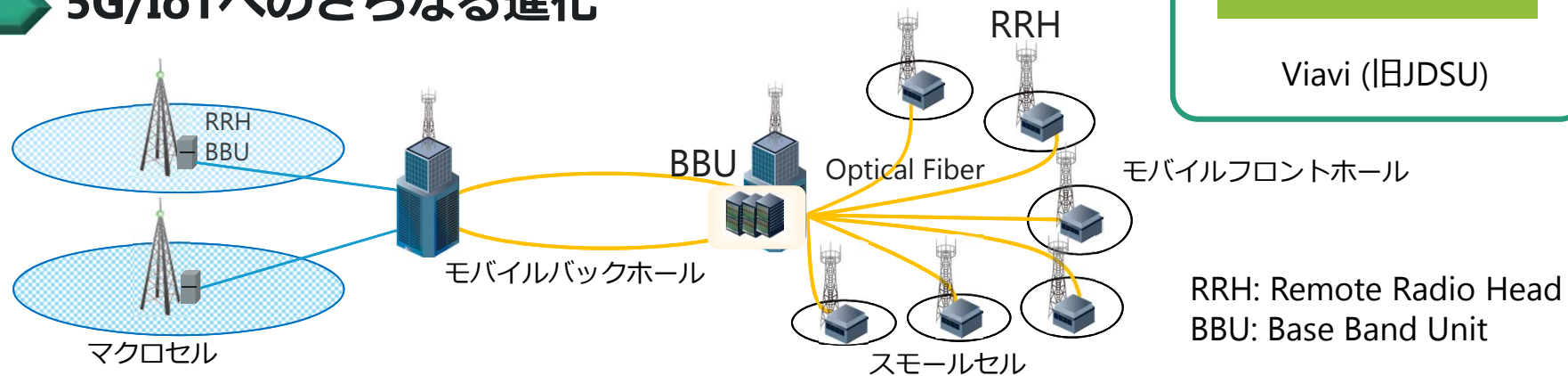


Ⅱ-3-5. 自動車市場の業界構造



Ⅱ -4. Network Reshaping Test Solutions

➡ 5G/IoTへのさらなる進化



主な競合

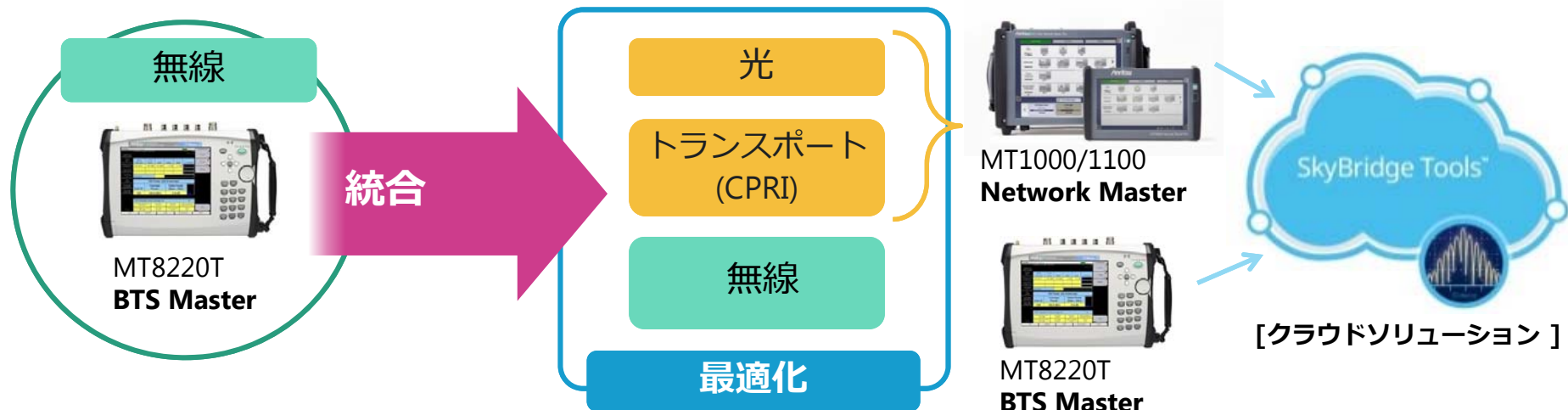
Viavi (旧JDSU)

現行LTE ネットワーク



5G ネットワーク

➡ ネットワークテストソリューションの未来を変える



Ⅱ-4-1.クラウドサービスの拡大を支えるテストソリューション

急速に伸びるデータトラフィック



グローバルデータセンターのトラフィック増加
出展: シスコ グローバルインデックス2015-2020



データセンター

- データセンター増設
- 高速化
- 大容量化
- 光化

DCI (データセンター相互接続)
高速通信
10G/40GbitE→100G/200/400GbitE

主な競合

キーサイト

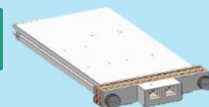
研究開発



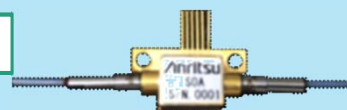
データセンター装置ベンダー
(ルーター、スイッチ等)



光モジュールベンダー



光デバイスベンダー

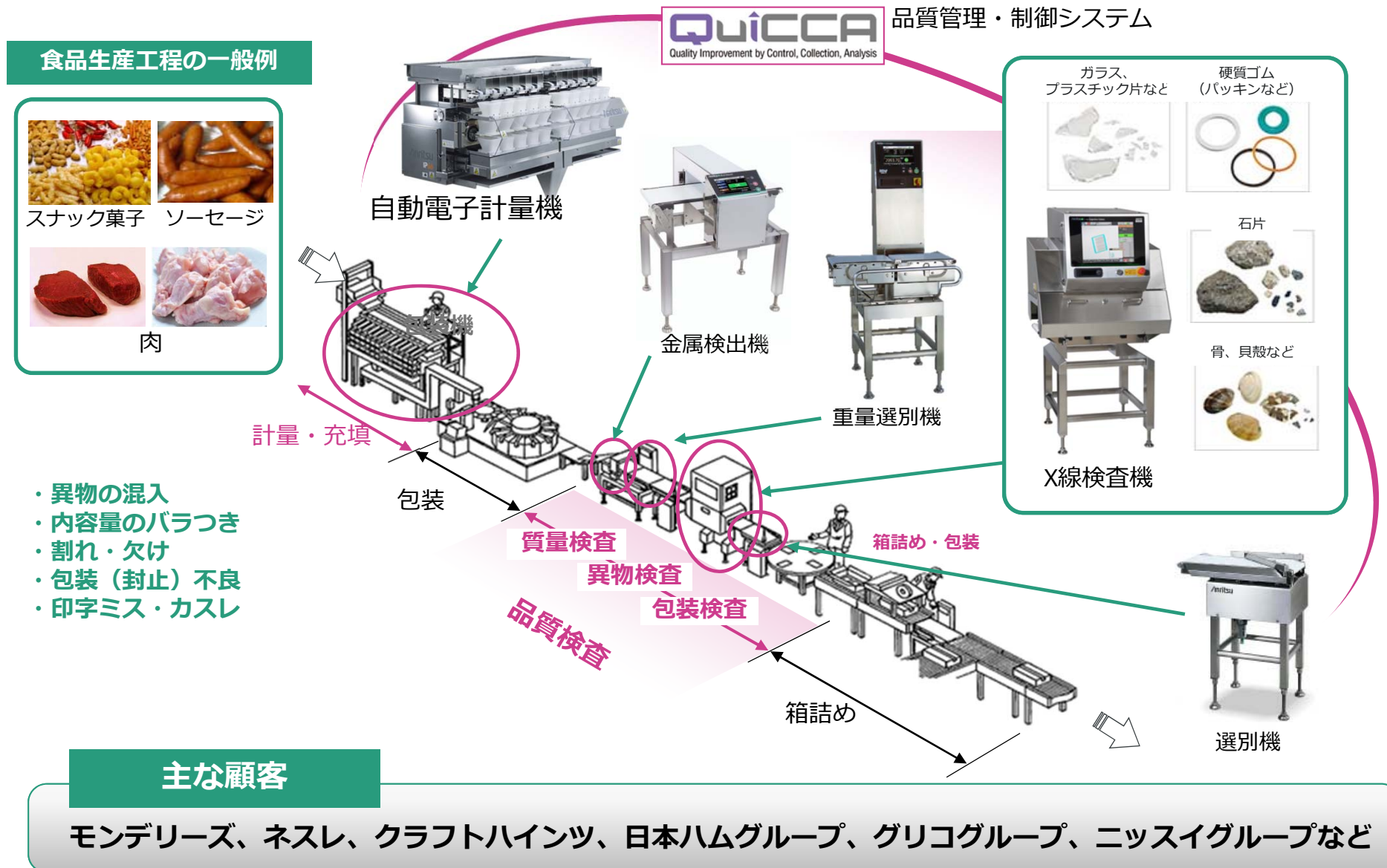


製造、設置、保守

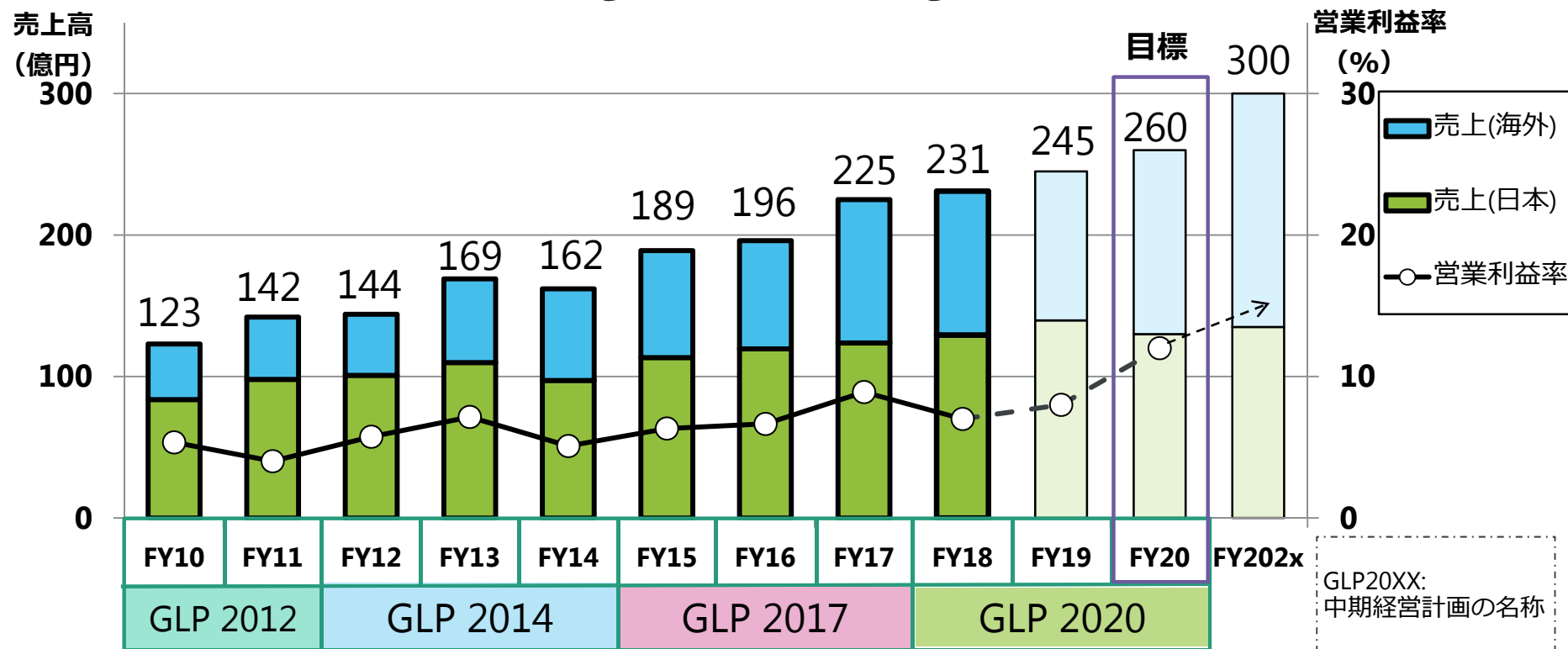


Ⅲ. PQA事業

Ⅲ-1. PQA 事業 (Products Quality Assurance)



Ⅲ-2-1. 成長するPQA事業< PQA >

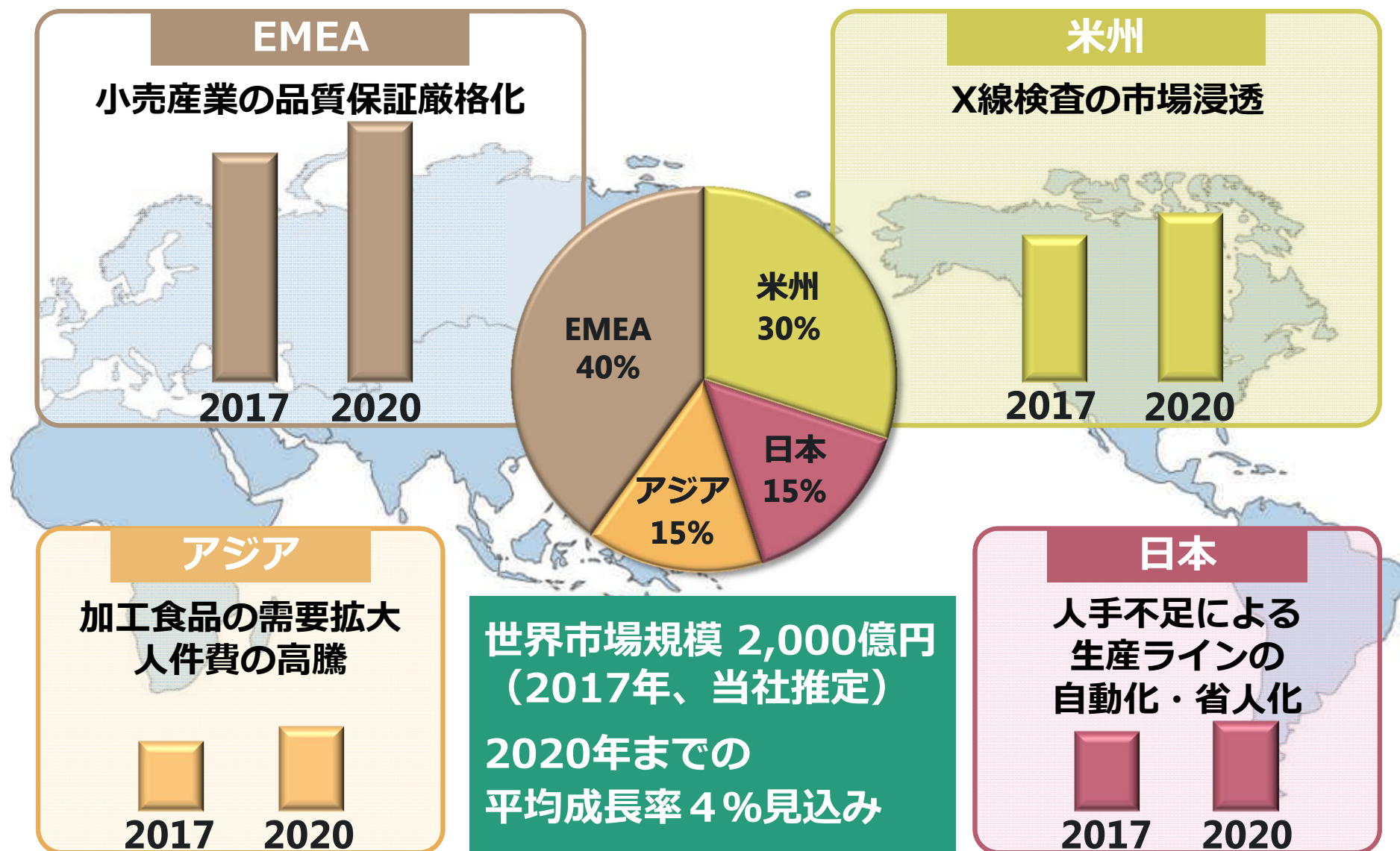


市場	主な取り組み
北米・EMEA・アジア	X線検査器をキー・ソリューションとした市場開拓
日本	最先端ニーズに応える高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上

主な競合

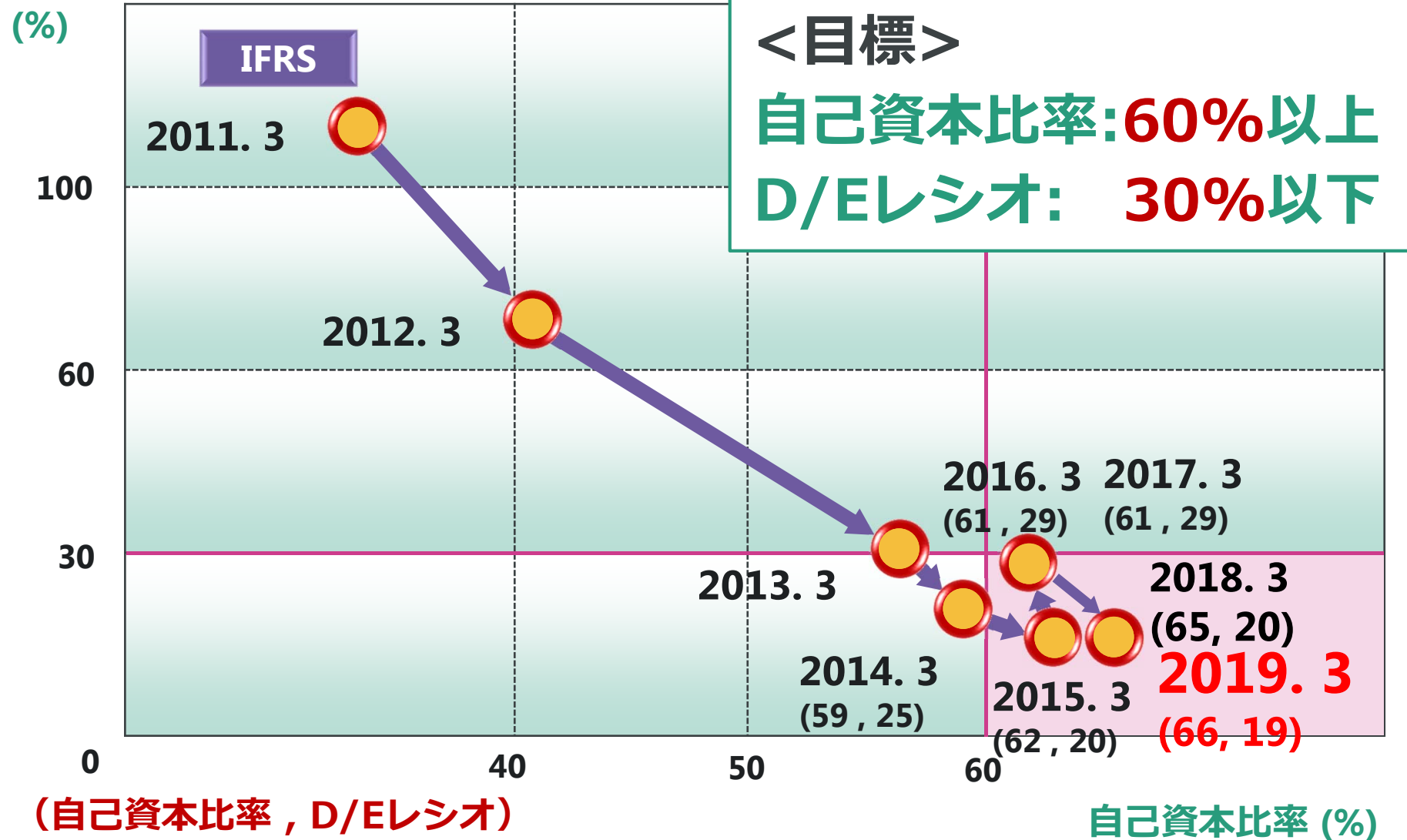
メトラートレド・イシダ・マレル

Ⅲ-2-2. PQA事業：PQA市場の現状と見通し



IV-1. 財務戦略

D/E レシオ



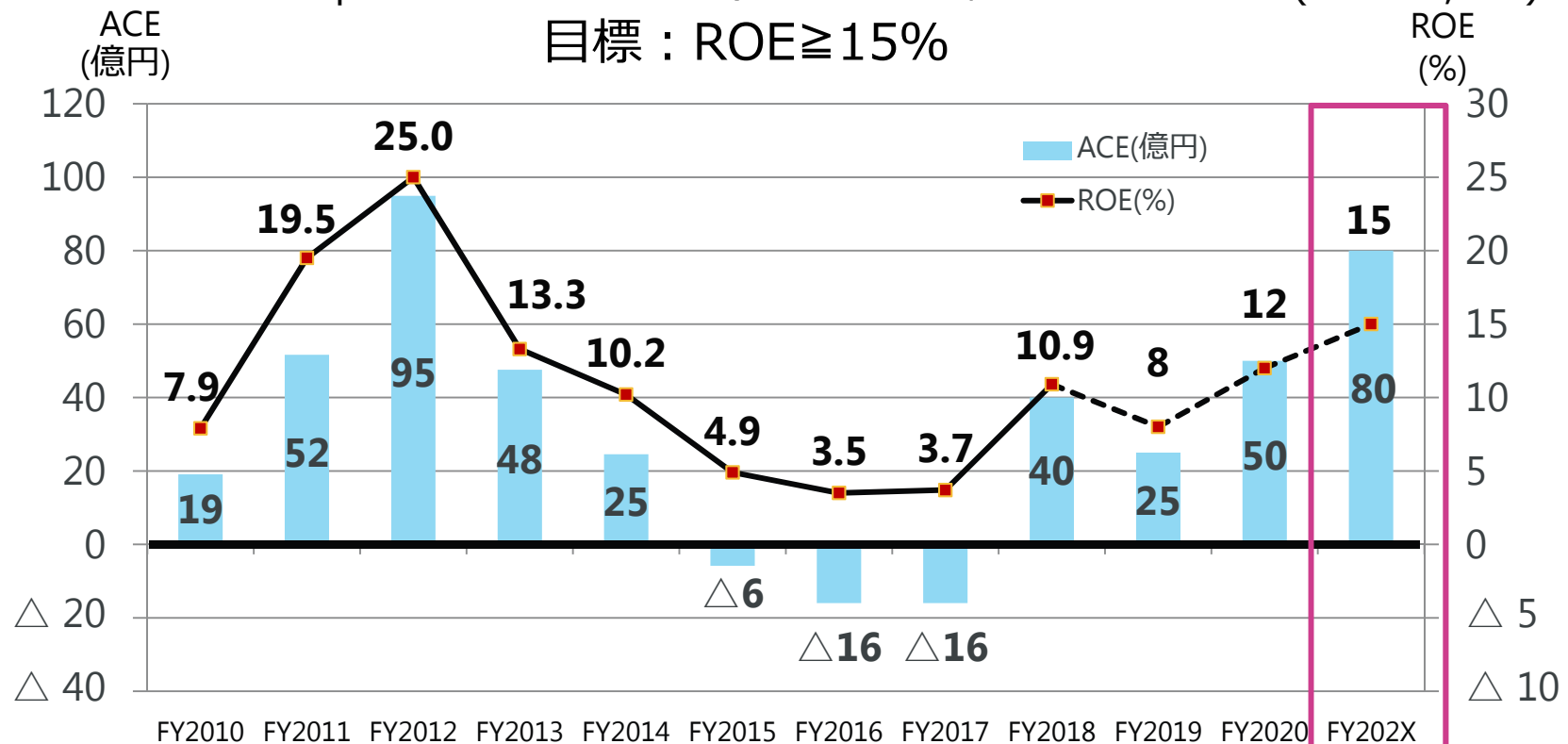
IV-1-1. GLP2020：財務戦略

基本方針

株主資本コスト7%を上回るリターンを生み出す
成長投資（含むM&A）と資本効率の改善で、
企業価値KPI(ACE & ROE)を向上する

* ACE（Anritsu Capital-cost Evaluation）：税引後営業利益-資本コスト(WACC,5%)

目標：ROE $\geq$ 15%



IV-2. 株主還元

利益処分に関する基本方針

連結業績（当期利益）に応じた利益処分を行うことを基本方針とする

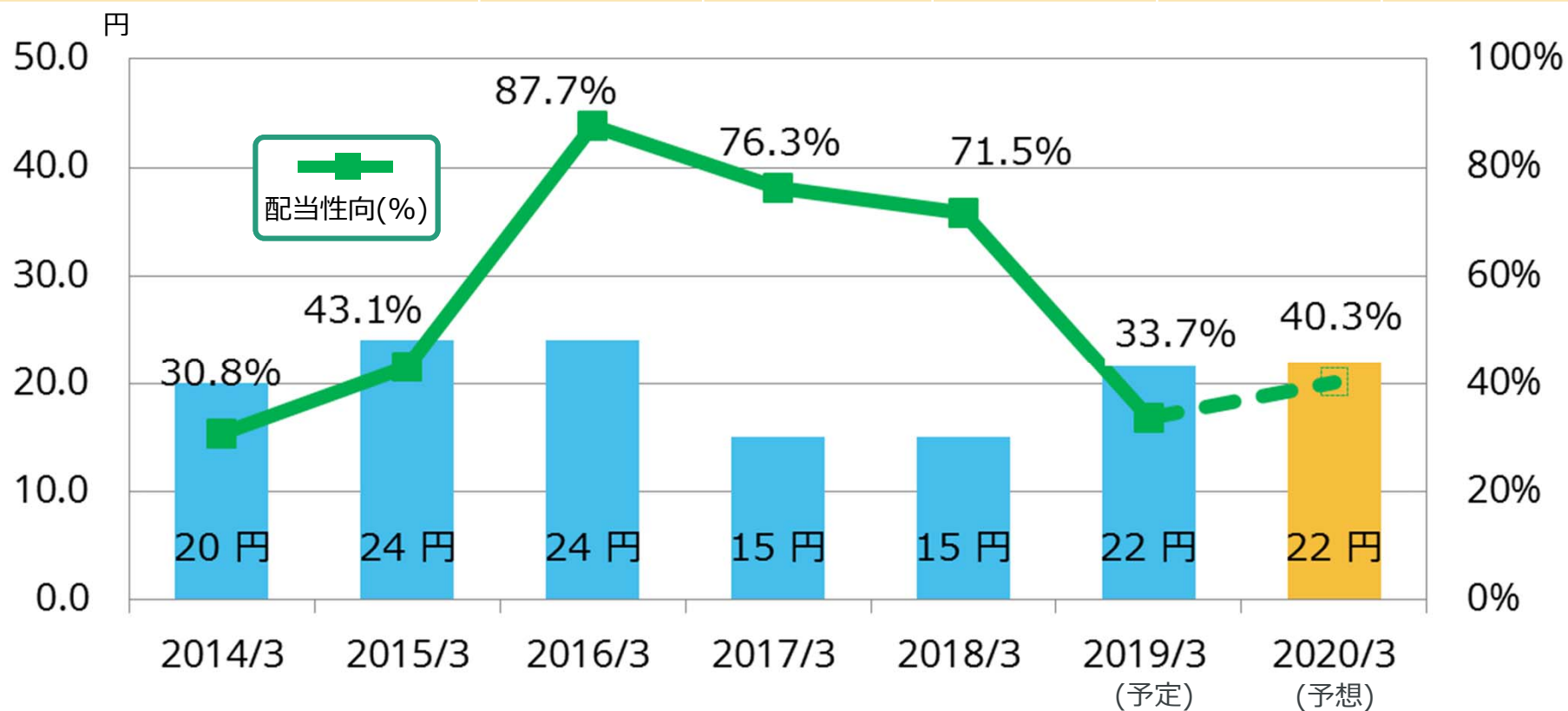
1. 連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率（DOE）を上げることを基本とする

2. 連結配当性向30%以上を目標とする

IV- 2- 1 . 配当予想について

年間配当

	年間配当	当期利益	配当性向	DOE	ROE
2020年3月期 (予想)	22円	75億円	40.3%	3.2%	8%
2019年3月期 (予定)	22円	90億円	33.7%	3.7%	10.9%



IV-3. 企業理念とサステナビリティ方針

経営理念

誠と和と意欲をもって、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する

経営ビジョン

衆知を集めたイノベーションで社会のサステナビリティに貢献し“利益ある持続的成長”を実現する

サステナビリティ方針

1. 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で快適な社会構築に貢献します
2. 誠実な企業活動を通じて、グローバル経済社会との調和を実践します
3. 人と自然が共存する環境経営を推進して地球環境保護に貢献します
4. すべてのステークホルダーとのコミュニケーションを推進して、強固なパートナーシップを構築します

IV-3-1. サステナビリティ経営を軸にする



IV-3-2. サステナビリティ目標 (SDGs)

事業を通じて社会課題を解決していく



安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の構造とイノベーションの促進に貢献する

計測事業



PQA事業



情報通信



デバイス



ESG（環境・社会・ガバナンス）重要課題と両立させていく

グローバル経済社会との調和

多様な人財とともに、個々人が成長し働きがいのある職場づくりに貢献する

人財育成、労働安全衛生、人権と多様性の尊重、人権を配慮したSCM



地球環境保護の推進

持続可能な消費と生産の企業活動で持続可能な社会づくりに貢献する

CO₂排出量・水使用量の削減、高品質で環境に配慮した製品の開発・製造、環境負荷を低減するSCM



コミュニケーションの推進による共有価値の創造

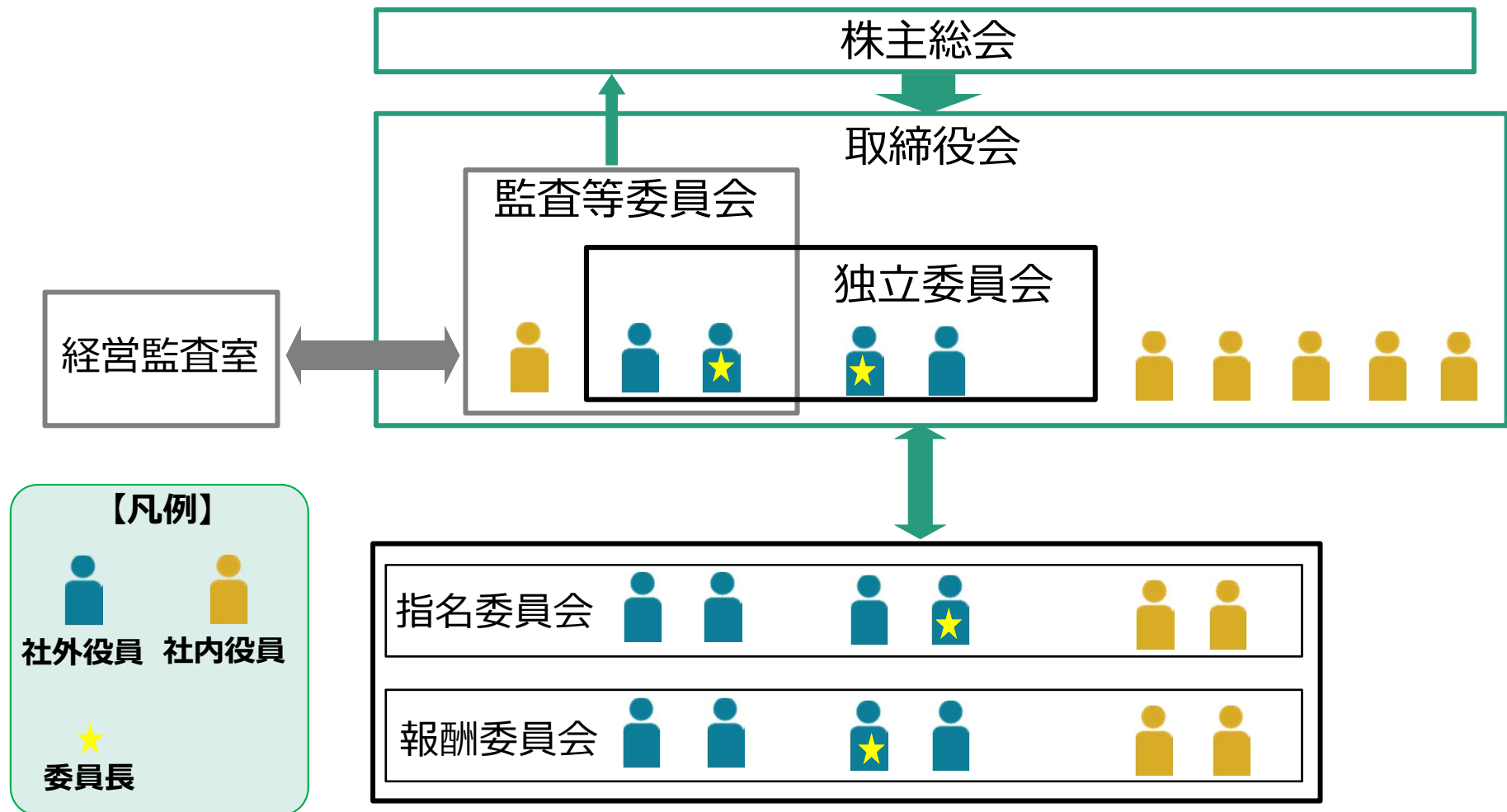
すべてのステークホルダーとともに協働して共有価値の創造に貢献する

情報提供とコミュニケーション、コンプライアンスの定着、リスクマネジメントの推進



IV-4. コーポレートガバナンス体制

-競争力を高め、継続的に企業価値を向上させていくために-



V. MWC 2019 Report



V-1. MWC19の概要

「MWC 2019」 2月25～28日にかけて、
スペイン・バルセロナで開催された世界最大のモバイル関連のイベント

注目は5Gスマートフォンとフォルダブル

多くの端末ベンダーが5Gスマートフォンを展示



Samsung
Galaxy
S10 **5G**



LG
V50 **5G**



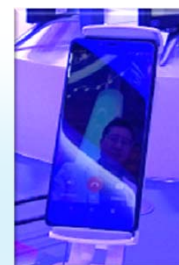
Sony
Xperia



Huawei
Mate 20



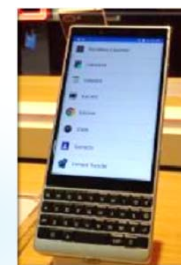
Xiaomi
Xiaomi 9



ZTE
Axon
10 **5G**



TCL
Alcatel
7 **5G**



TCL
Black Berry

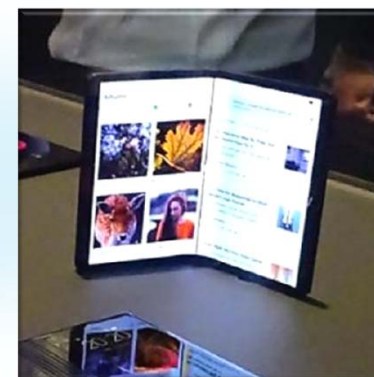
大注目のフォルダブルスマートフォン



Huawei
Mate
X **5G**

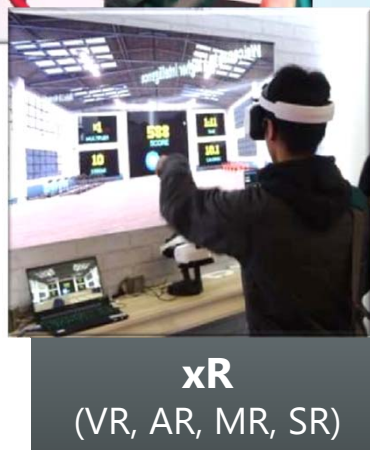


Samsung
Galaxy
Fold



TCL
Dragon
Hinge

V-2. 5Gのユースケースとして xR が目立つ



xR
(VR, AR, MR, SR)



Music Play



5G Factory



**Edge
Computing
For V2X**



遠隔医療



5G Stadium

- ▶ AR, VR, MR, SRの総称としてxRの呼び名が普及。新たな表現や利用が拡大。
- ▶ 5Gの低遅延を生かす産業向けIoTの提案が増加

AR : Augmented Reality (拡張現実)

VR : Virtual Reality (仮想現実)

MR : Mixed Reality (複合現実)

SR : Substitutional Reality (代替現実)

V-3. アンリツブース



MS2090A
Field Master Pro
9kHz – 54GHz

5G用ハンドヘルド
スペクトラム
アナライザを初展示



初展示のCATRチャンバー



商用端末機能試験



RFコンFORMANCE



プロトコル
コンFORMANCE

- ▶ 5G開発、コンFORMANCE、製造、保守までのフルラインナップを展示。

CATR : Compact Antenna Test Range

V-4. 注目を浴びたMT8000を使った5Gライブデモ例

アンリツブース



Qualcomm様、Sony様、MediaTek様、Inseego様の端末との接続試験を実施

Media Tek様ブース



Sub6GHz スループットデモ
安定的に>4Gbpsを実現

VI. 2019年3月期 連結決算概要

VI- 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

 GLP2020第1年次目標を達成する

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	885	1,008	123	14%
売上高	860	997	137	16%
営業利益	49	112	63	129%
税引前利益	46	114	68	147%
当期利益	29	90	61	210%
当期包括利益	39	94	55	143%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

VI- 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

 T&M：5G初期開発投資の波をとらえて25%成長 (単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
T&M	売上高	544	682	138	25%
	営業利益	21	94	73	338%
	(調整後営業利益)	(25)*	(94)	69	274%
PQA	売上高	225	231	6	2%
	営業利益	20	16	△ 4	△ 18%
その他	売上高	90	84	△ 6	△ 6%
	営業利益	15	11	△ 4	△ 21%
調整額	営業利益	△ 7	△ 9	△ 2	-
合計	売上高	860	997	137	16%
	営業利益	49	112	63	129%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

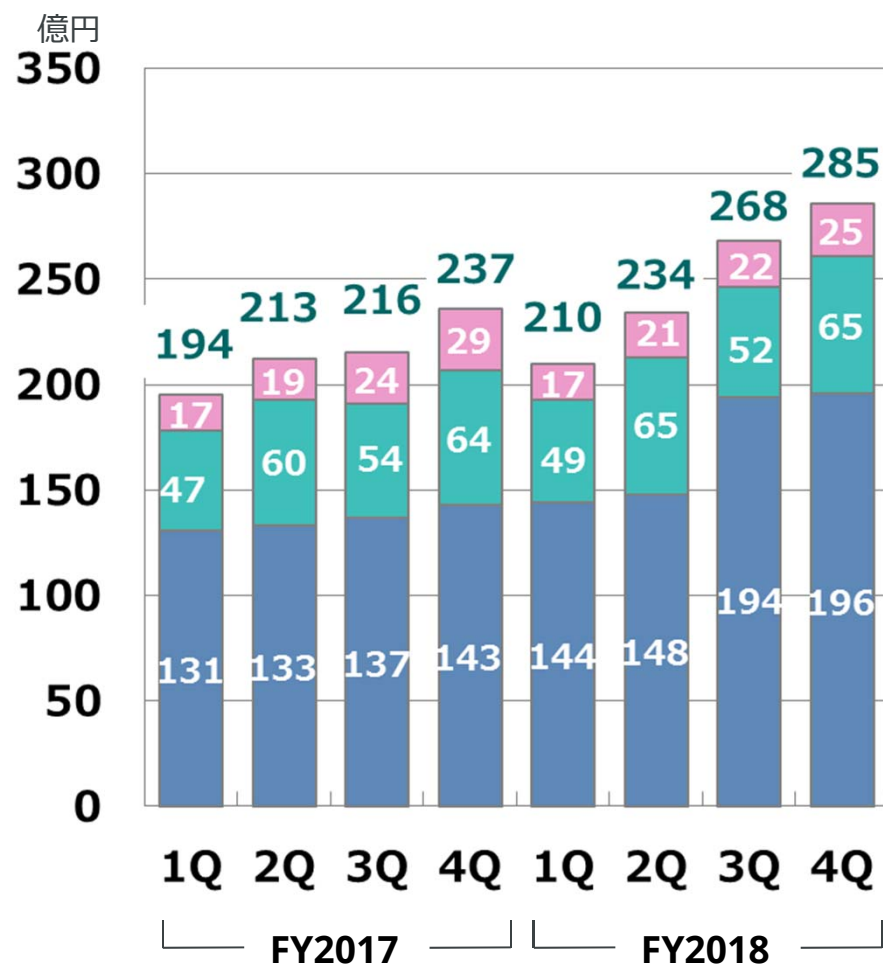
(注3) 第1四半期連結会計期間から本社管理費等の各事業セグメントへの配分方法を変更しており、前連結会計年度の数値は組替再表示しています。

*T&M調整後営業利益は、米国でのリストラ費用3億円を控除した数値です。

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

VI- 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

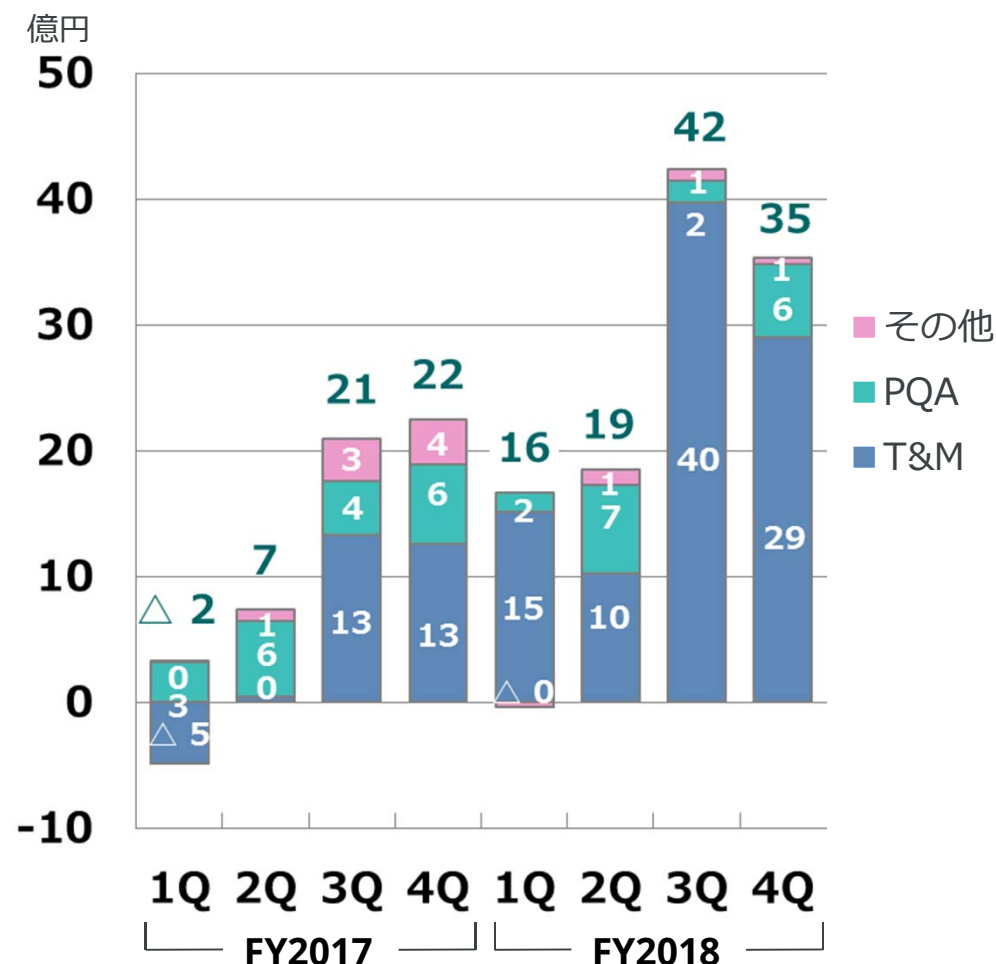
➡ 4Q(1-3月)営業利益率：連結12%, T&M15%, PQA9%



売上高

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) 営業利益の「その他」には「調整額」が含まれています。



営業利益

VI- 4. 事業別営業概況

セグメント		2019年3月期（4月-3月）の状況
➡ T&M ：5G商用化スケジュール順調に進展		
モバイル	LTE	LTE-Aへの投資は抑制・縮小が続く
	5G	MWC19にて5G端末相次いでリリース
Network Infrastructure		米国の内需関連投資は堅調
アジア	韓国で5Gサービス開始、中国にて5G商用化実験準備	
米州	主要オペレータにて5Gサービス開始	
➡ PQA ：国内・海外とも食品市場の品質保証、自動化、省力化の投資が堅調に継続		

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

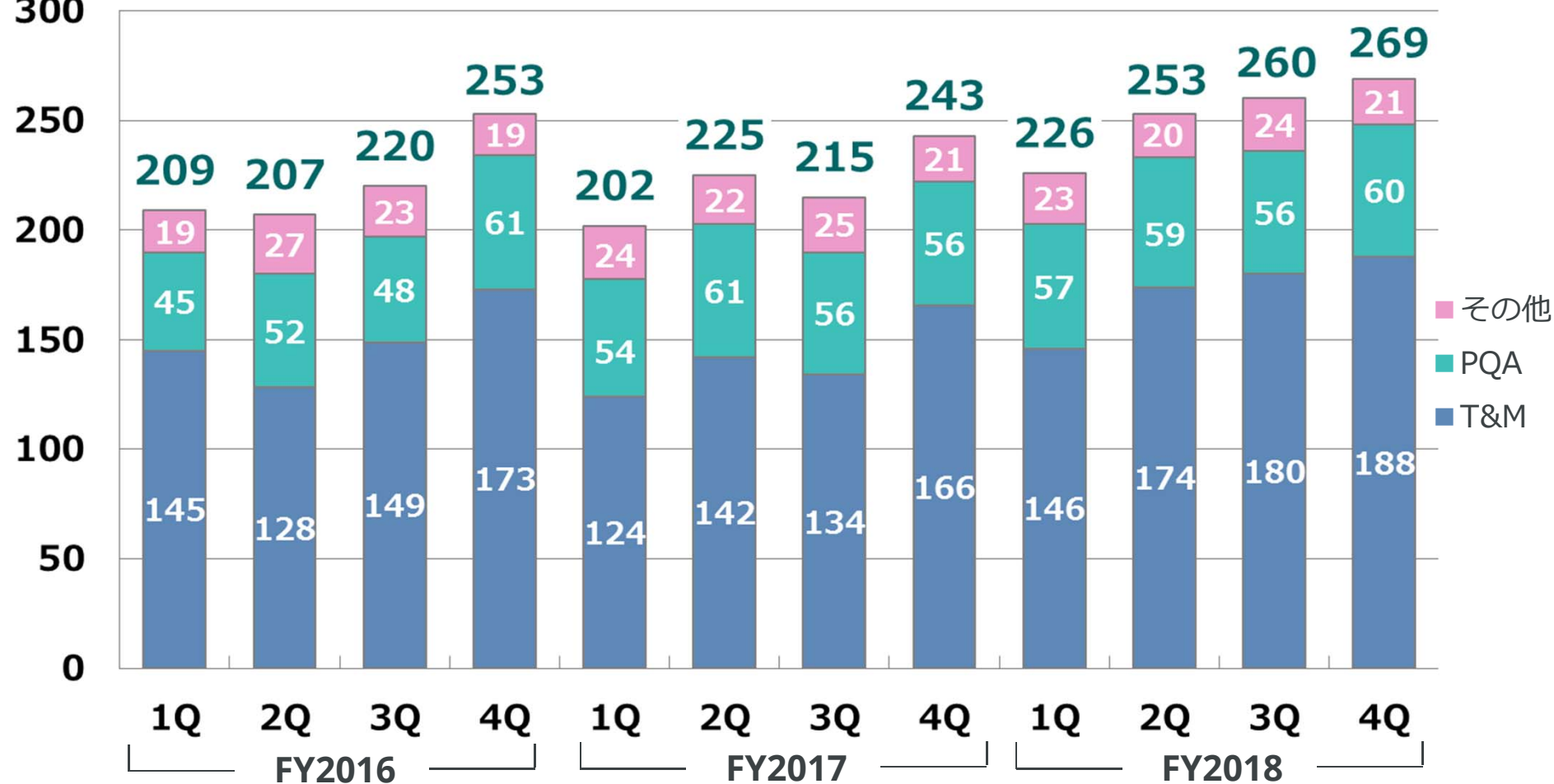
MWC19 : Mobile World Congress 2019

VI- 5. 受注高推移

➡ T&M：前年同期比13%増

➡ PQA：前年同期比8%増

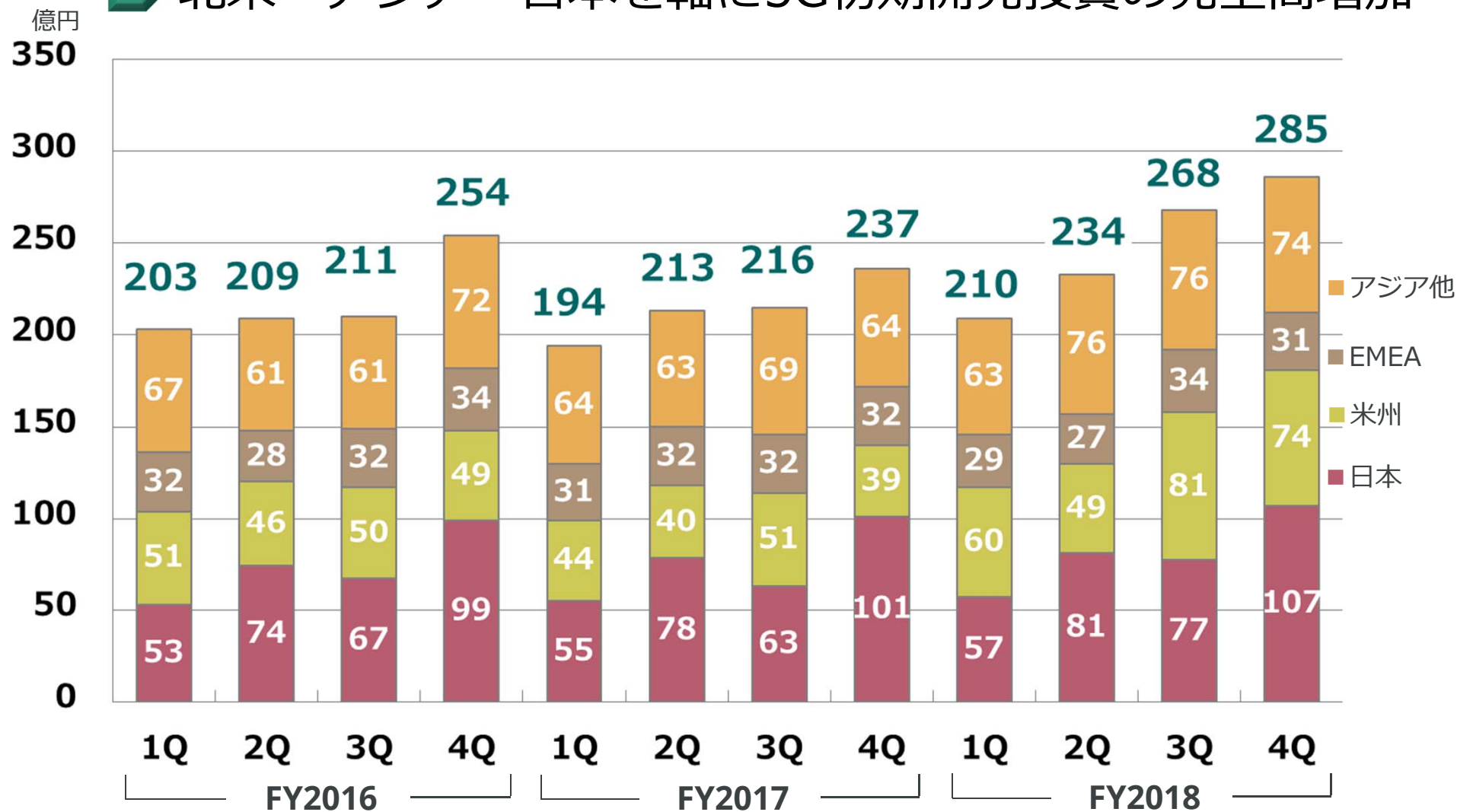
億円
300



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

VI- 6. 地域別売上高推移

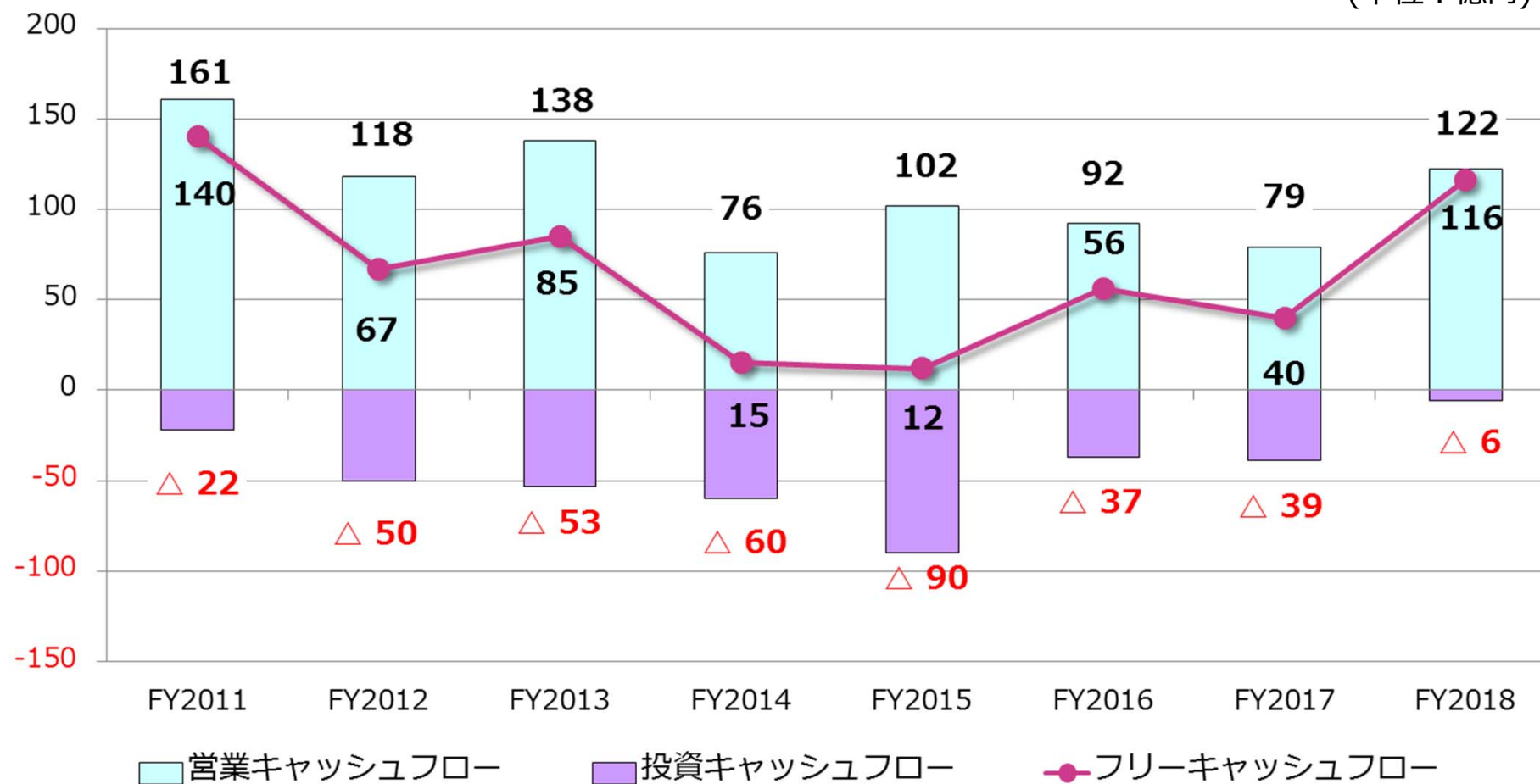
▶ 北米・アジア・日本を軸に5G初期開発投資の売上高増加



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

VI- 7. キャッシュフロー (1/2)

(単位：億円)



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

VI- 7. キャッシュフロー(2/2)

➡ 営業CFマージン率12.3%

FY2018

①営業CF： 122億円

②投資CF： △ 6億円

③財務CF： △21億円

フリーキャッシュフロー

(① + ②)： 116億円

現金同等物期末残高

451億円

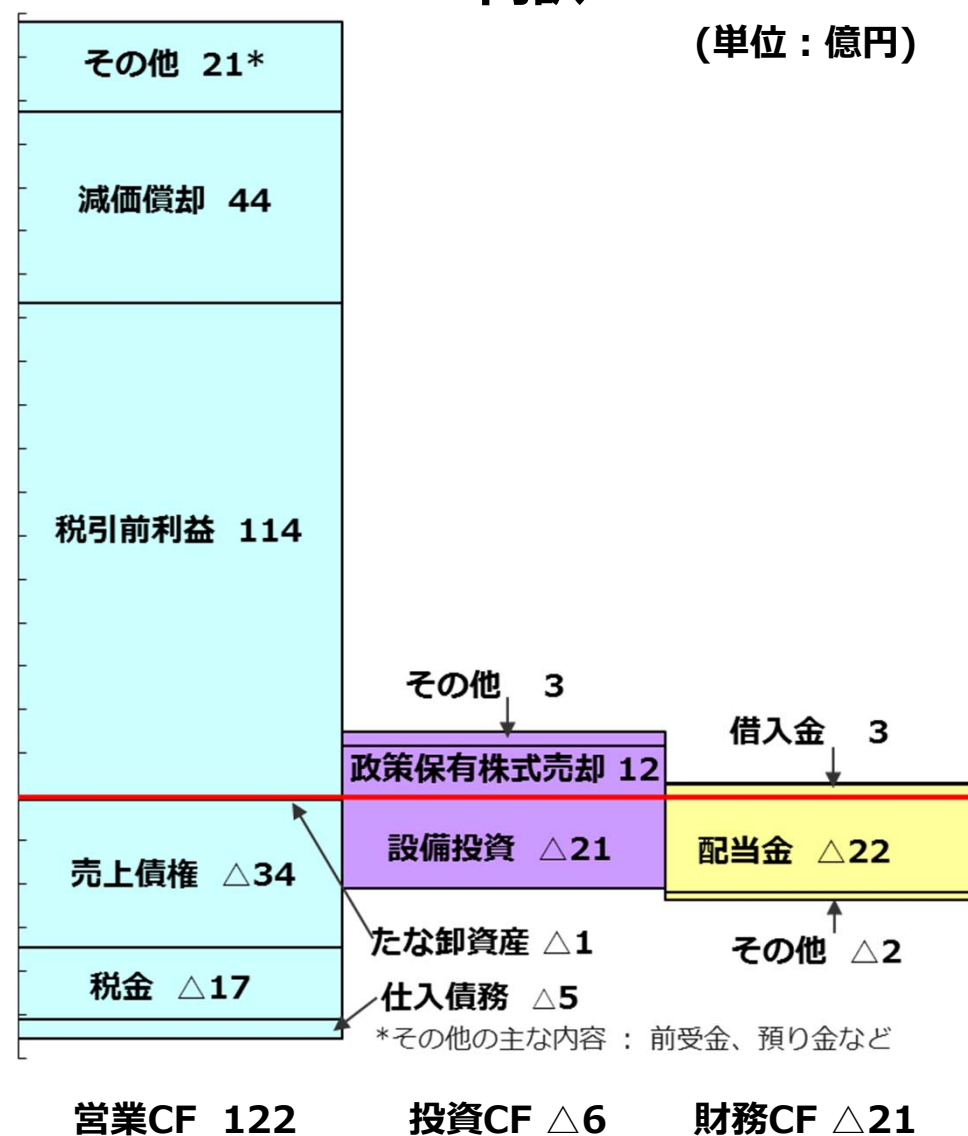
有利子負債高

162億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

内訳

(単位：億円)



VI-8. 2020年3月期 通期業績予想（連結）

➡ 積極的な5G戦略投資で競争力強化

（単位：億円）

		2019/3期	2020/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		997	1,020	23	2%
営業利益		112	100	△ 12	△ 11%
税引前利益		114	100	△ 14	△ 12%
当期利益		90	75	△ 15	△ 17%
T&M	売上高	682	690	8	1%
	営業利益	94	80	△ 14	△ 15%
PQA	売上高	231	245	14	6%
	営業利益	16	20	4	24%
その他	売上高	84	85	1	1%
	営業利益	11	9	△ 2	△ 21%
調整額	営業利益	△ 9	△ 9	0	-

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）FY18為替レート : 1米ドル111円、1ユーロ=128円
FY19想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円



Anritsu
envision: ensure

